

中医協 総 - 6 - 2
5 . 3 . 2 2

中医協 検 - 6 - 2
5 . 3 . 2 2

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和4年度調査）の
報告案について

○ 明細書無料発行に関する実施状況調査 （右下頁）

- ・報告書（案） 1頁
- ・調査票 70頁

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和4年度調査）

明細書の無料発行の実施状況調査

報告書（案）

◆◆目次◆◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	2
4. 調査項目	2
5. 調査検討委員会	6
II. 調査の結果	7
1. 回収結果	7
2. 一般診療所・歯科診療所調査	7
(1) 診療所の概要（令和4年6月末時点）	8
(2) 「正当な理由」の届出	13
(3) 患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応	17
(4) 明細書の無料発行に当たっての課題	23
3. 訪問看護調査	25
(1) レセプト請求方法	25
(2) 明細書の発行状況、発行体制、利用者の反応	28
(3) 全利用者に明細書を無料発行していない理由	34
(4) 明細書の無料発行に当たっての課題	36
4. 患者調査（一般診療所・歯科診療所）	38
(1) 調査票の記入者について	38
(2) 受診日当日の明細書の受け取り状況	40
(3) これからの明細書の受け取りについて	46
5. 患者調査（病院）	50
(1) 調査票の記入者について	50
(2) 受診日当日の明細書の受け取り状況	52
(3) 明細書の受け取りについての考え	54

6. 利用者調査（訪問看護）.....	57
(1) 調査票の記入者について.....	57
(2) 明細書の受け取り状況.....	59
(3) これからの明細書の受け取りに対する考え.....	63

I. 調査の概要

1. 目的

明細書の無償発行については、平成 20 年度以降順次、義務対象が拡大されているところであるが、現在、医科・歯科診療所のうち正当な理由があるものについては無償発行の義務対象外とする経過措置が設けられている。また、現在は電子レセプト請求を行っていないことから努力義務とされている訪問看護ステーションについて、令和 6 年度からは電子レセプト請求が開始されることとなっている。

これらを踏まえ、今後の明細書の無償発行の義務対象の範囲について検討するため、本調査では、明細書の無償発行の現状や課題等について調査・検証を行う。

2. 調査対象

本調査では、「①一般診療所・歯科診療所調査」「②訪問看護調査」および「③患者調査（一般診療所・歯科診療所）」「④患者調査（病院）」「⑤利用者調査（訪問看護）」の 5 つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

① 一般診療所・歯科診療所調査

全国の一般診療所・歯科診療所の中から「正当な理由」の届出を行っている診療所を悉皆で調査対象とした。調査客体は 445 施設となった。

② 訪問看護調査

全国の訪問看護ステーションから、以下の(a), (b)の条件で計 1,862 施設を抽出した。
(a) 機能強化型訪問看護ステーションから 862 施設を悉皆で抽出した。(b)機能強化型以外の訪問看護ステーションから 1,000 施設を無作為抽出した。なお、本調査は「在宅医療、在宅歯科医療、在宅訪問薬剤管理及び訪問看護の実施状況調査」内に盛り込む形で実施した。

③ 患者調査（一般診療所・歯科診療所）

上記①「一般診療所・歯科診療所調査」の対象 1 施設につき 4 名を本調査の対象とし、調査客体数は最大で 1,780 人（ $4 \times 445 = 1,780$ 人）とした。

④ 患者調査（病院）

全国の病院から無作為抽出した 250 施設に対して、1 施設につき 4 名を本調査の対象とし、調査客体数は最大で 1,000 人（ $4 \times 250 = 1,000$ 人）とした。

⑤ 利用者調査（訪問看護）

上記②「訪問看護調査」の対象 1 訪問看護ステーションにつき 4 名を本調査の対象とし、調査客体数は最大で 7,448 人（ $4 \times 1,862 = 7,448$ 人）とした。

3. 調査方法

「①一般診療所・歯科診療所調査」「②訪問看護調査」は郵送発送による自記式アンケート調査方式により実施した。回答は、紙媒体（IDを印字した調査票）に記入後、郵送返送する方法と、回答者の負担軽減のため、専用ホームページより電子調査票をダウンロードし、入力の上、メールへの添付により返送する方法から選択できるようにした。

「③患者調査（一般診療所・歯科診療所）」「④患者調査（病院）」「⑤利用者調査（訪問看護）」自記式調査票（患者票）の配布は調査対象施設（一般診療所・歯科診療所、病院、訪問看護ステーション）を通じて行い、回収は事務局宛の専用返信封筒により患者・利用者から直接郵送で行った。

調査実施時期は、令和4年12月から令和5年1月であった。

4. 調査項目

各調査の調査票（「①一般診療所・歯科診療所調査」「②訪問看護調査」および「③患者調査（一般診療所・歯科診療所）」「④患者調査（病院）」「⑤利用者調査（訪問看護）」）の調査項目は以下のとおりである。

《①一般診療所・歯科診療所調査》

設問種類	設問項目
1. 貴施設の 基本情報	①施設名
	②所在地
	③開設者
	④施設種別
	⑤標榜診療科
	⑥全職員数
	⑦1か月の延べ患者数
2. 「正当な理由」の届出	①該当する「正当な理由」
	②全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定の有無
	③全患者に明細書を無料で発行する場合の課題
	④院内での「正当な理由」に該当する旨等の表示の有無
	⑤明細書発行の無償化に向けた取組
3. 患者への 明細書の発行 状況、発行体 制、患者の反 応等	①明細書の発行状況
	②明細書の作成・発行方法
	③患者の明細書の内容等への問い合わせへの対応体制
	④レセプトコンピュータの改修時期と自動入金機の有無
	⑤患者から明細書の内容に関する問合せの有無（令和4年6月）
	⑥明細書についての患者からの問合せ項目・意見

設問種類	設問項目
4. 明細書の無料発行に当たっての課題	①仮に明細書の無料発行が義務化された場合に、明細書の無料発行が可能となるために必要な期間
	②上記の年数が必要な理由
5. ご意見・ご要望等	①明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等についてのご意見・ご要望等

《②訪問看護調査》

設問種類	設問項目
1. レセプト請求方法等	①医事会計システムの導入状況
	②医療保険のレセプトの請求方法
	③業務で使用している ICT 機器の状況
2. 明細書の発行状況、発行体制、利用者の反応等	①明細書の発行状況
	②明細書を受け取るための費用
	③明細書発行の頻度
	④明細書発行の対応者
	⑤明細書の作成・発行方法
	⑥明細書発行体制の整備で負担となること
	⑦利用者から明細書の内容に関する問合せの有無（令和4年6月）
3. 全利用者に明細書を無料発行していない理由等	①全利用者に明細書を無料発行していない理由
	②全利用者に明細書を無料で発行する体制を整える予定の有無
4. 明細書の無料発行に当たっての課題	①仮に明細書の無料発行が義務化された場合に、明細書の無料発行が可能となるために必要な期間
	②上記の年数が必要な理由
5. ご意見・ご要望等	①明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等についてのご意見・ご要望等

《③患者調査（一般診療所・歯科診療所）》

設問種類	設問項目
0. 調査票の記入者	①本人またはご家族
1. 患者自身について	①性別
	②年代
	③医療費の自己負担額の有無
	④調査対象となっている診療所への直近1か月間の受診回数
2. 本日の明細書の受け取り状況等	①調査日の会計方法
	②明細書受け取りの希望
	③明細書受け取りの有無
	④明細書を受け取るための手数料
	⑤明細書内容の確認状況
	⑥明細書を受け取ってよかったこと
	⑦過去の明細書の保管状況
	⑧明細書を受け取った方がよかったと感じるか
3. これからの明細書の受け取りに対するお考え	①今後の診療所での明細書の発行を希望有無
	②明細書無料発行への考え
4. 明細書の無料発行についてご意見	①明細書の無料発行についてご意見

《④患者調査（病院）》

設問種類	設問項目
0. 調査票の記入者	①本人またはご家族
1. 患者自身について	①性別
	②年代
	③医療費の自己負担額の有無
	④1か月間でのこの病院への受診回数
2. 本日の明細書の受け取り状況等	①調査日の会計方法
	②明細書内容の確認状況
	③明細書を受け取ってよかったこと
	④過去の明細書の保管状況

設問種類	設問項目
3. これからの明細書の受け取りに対するお考え	①明細書無料発行への考え
4. 明細書の無料発行についてご意見	①明細書の無料発行についてご意見

《⑤利用者調査（訪問看護）》

設問種類	設問項目
0. 調査票の記入者	①本人またはご家族
1. 患者自身について	①性別
	②年代
	③医療費の自己負担額の有無
	④1 か月間でのこの訪問看護ステーションへの受診回数
2. 本日の明細書の受け取り状況等	①明細書の受取の有無（最近1か月・調査対象の訪問看護ステーション）
	①-1 明細書受け取りの手数料の有無
	①-2 明細書内容の確認状況
	①-3 明細書を受け取ってよかったこと
	①-4 過去の明細書の保管状況
	②明細書を受け取った方がよかったと感じるか
3. これからの明細書の受け取りに対するお考え	①今後の訪問看護ステーションでの明細書の発行を希望有無
	①-1 発行を希望しない理由
	②明細書無料発行への考え
4. 明細書の無料発行についてご意見	①明細書の無料発行についてご意見

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下のとおり、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

黒瀬 巖	公益社団法人日本医師会 常任理事
○関 ふ佐子	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授
西口 妙子	一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会 医事コンピュータ部会 電子レセプト委員長
平原 優美	日本訪問看護財団 常務理事 あすか山訪問看護ステーション 統括所長
松尾 豊	公益社団法人東京都歯科医師会 理事 公益社団法人日本歯科医師会 社会保険委員会 委員

【オブザーバー】

永瀬 伸子	お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 教授
-------	-----------------------

II. 調査の結果

1. 回収結果

「①一般診療所・歯科診療所調査」の有効回答数（施設数）は184件、有効回答率は41.3%、「②訪問看護調査」の有効回答数（事業所数）は823件、有効回答率は44.2%であった。

「③患者調査（一般診療所・歯科診療所）」の有効回答数は252件、「④患者調査（病院）」の有効回答数は210件、「⑤利用者調査（訪問看護）」の有効回答数は1,483件であった。

図表 1-1 今年度の回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
①一般診療所・歯科診療所調査	445件	184件	41.3%
②訪問看護調査	1,862件	823件	44.2%
③患者調査 （一般診療所・歯科診療所）	-	252件	-
④患者調査（病院）	-	210件	-
⑤利用者調査（訪問看護）	-	1,483件	-

※「③患者調査（一般診療所・歯科診療所）」「④患者調査（病院）」「⑤利用者調査（訪問看護）」については、各施設から何部配布されたかが把握できない方法で調査を行っていることから、発送数と有効回答率の表記を行っていない。

2. 一般診療所・歯科診療所調査

【調査対象等】

○調査票 施設票（一般診療所・歯科診療所）

調査対象：全国の一般診療所・歯科診療所の中から「正当な理由」の届出を行っている診療所 445 施設（悉皆）

回 答 数：184 施設（回答率 41.3%）

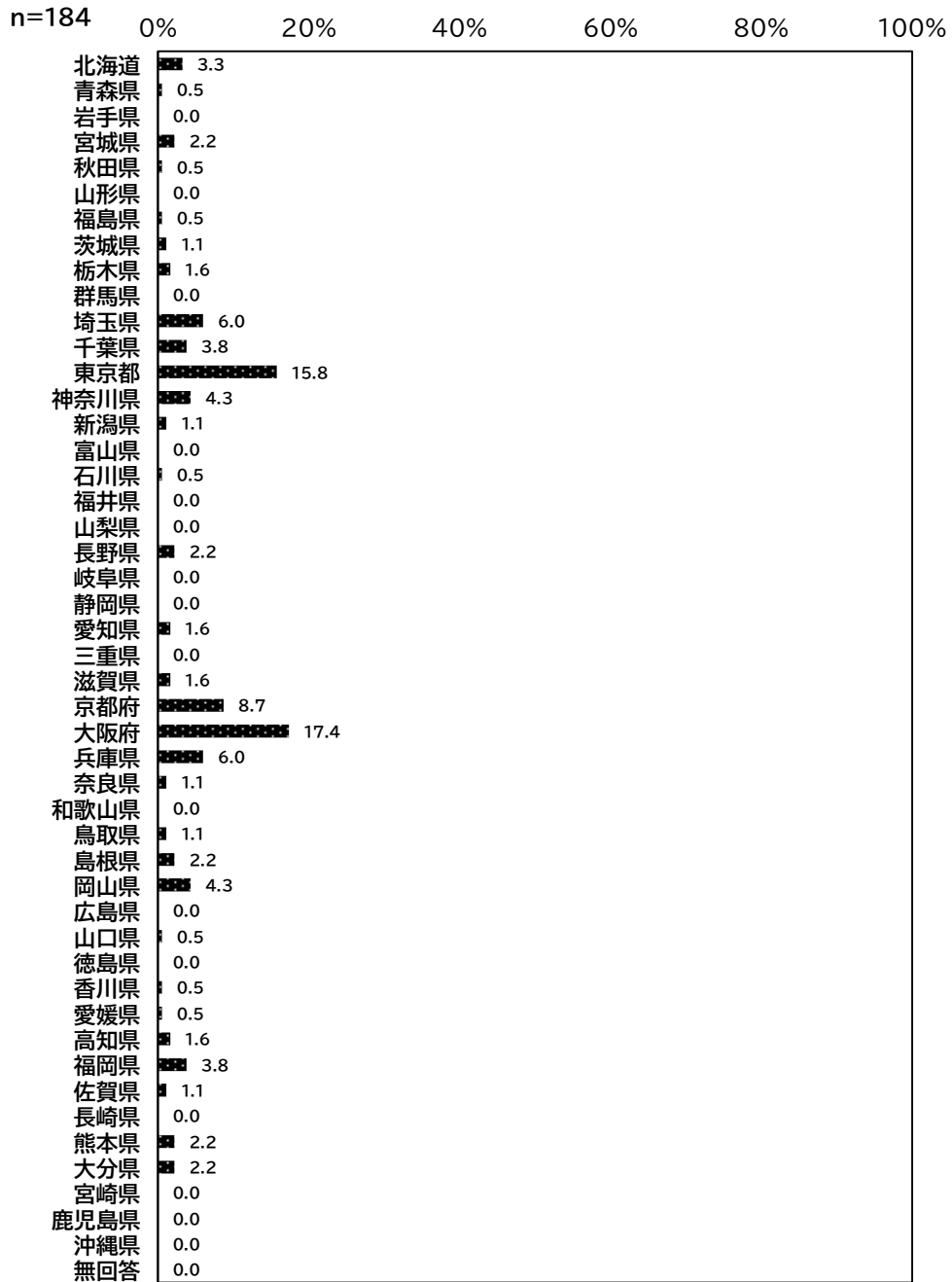
回 答 者：開設者・管理者

(1) 診療所の概要（令和4年6月末時点）

① 所在地（都道府県）

回答施設の所在地（都道府県）は以下のとおりであった。

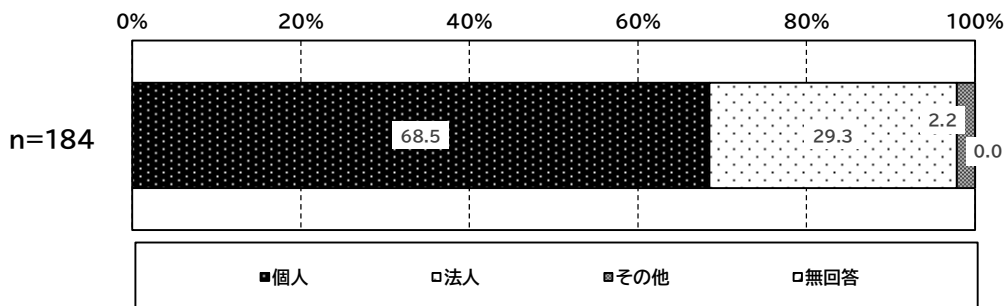
図表 2-1 所在地（都道府県）



② 開設者

開設者は、「個人」が68.5%と最も多く、次いで「法人」が29.3%であった。

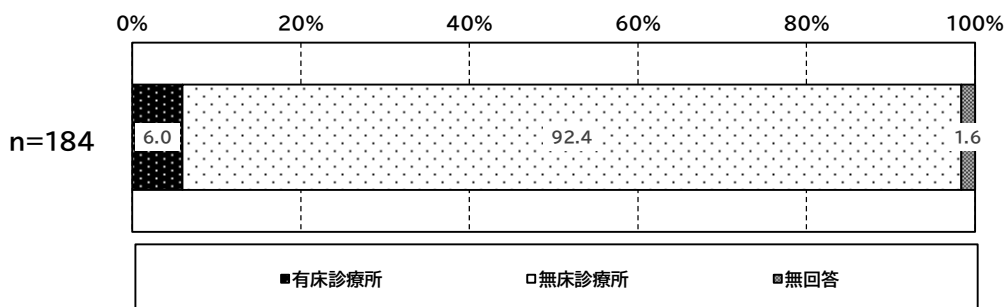
図表 2-2 開設者



③ 施設種別

施設種別は有床診療所が6.0%、無床診療所が92.4%であった。有床診療所の場合の許可病床数は平均13.3床であった。

図表 2-3 施設種別



図表 2-4 許可病床数（有床診療所）

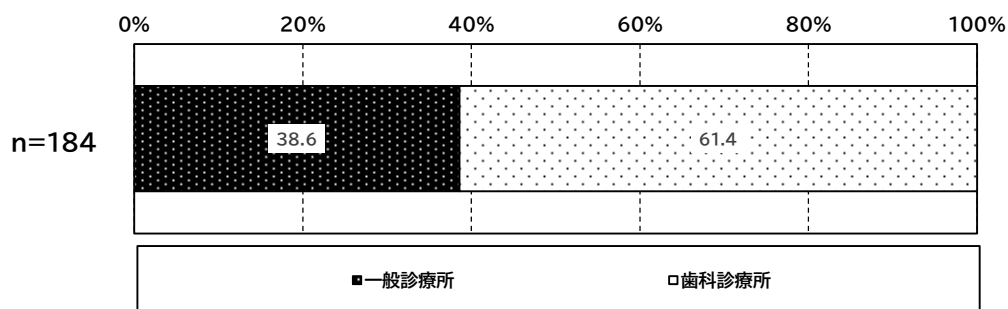
	施設数	平均値 (床)	標準偏差	中央値
許可病床数	11	13.3	6.7	16

※有床診療所を集計対象とした

④ 標榜診療科

標榜診療科について、「歯科」「矯正歯科」「小児歯科」「歯科口腔外科」のうち少なくとも1つを標榜している「歯科診療所」は61.4%、「歯科」「矯正歯科」「小児歯科」「歯科口腔外科」を1つも標榜してない「一般診療所」は38.6%であった。

図表 2-5 標榜診療科からみた一般診療所・歯科診療所の別



⑤ 全職員数（常勤換算）

全職員数は平均6.2人で、職種別の人数は下記の通りであった。

図表 2-6 全職員数（常勤換算）

<全体>

	施設数	平均（人）	標準偏差	中央値
全体	183	6.2	10.3	4
医師	183	0.5	0.7	0
歯科医師	183	0.8	0.9	1
看護職員	183	1.1	2.8	0
歯科衛生士	183	0.8	1.4	0
薬剤師	183	0.0	0.1	0
事務職員	183	1.4	2.6	1
その他の職員	183	1.6	6.4	0.1

< 一般診療所 >

	施設数	平均 (人)	標準偏差	中央値
全体	71	9.2	15.8	5.1
医師	71	1.2	0.7	1
歯科医師	71	0.0	0.0	0
看護職員	71	2.7	3.9	2
歯科衛生士	71	0.0	0.0	0
薬剤師	71	0.0	0.2	0
事務職員	71	2.8	3.7	2
その他の職員	71	2.6	10.0	0

< 歯科診療所 >

	施設数	平均 (人)	標準偏差	中央値
全体	112	4.3	2.9	3.5
医師	112	0.1	0.2	0
歯科医師	112	1.3	0.8	1
看護職員	112	0.0	0.2	0
歯科衛生士	112	1.3	1.6	1
薬剤師	112	0.0	0.1	0
事務職員	112	0.5	0.8	0
その他の職員	112	1.1	1.4	1

⑥ 1か月の延べ患者数（令和4年6月1か月間）

令和4年6月1か月間の延べ患者数は外来・初診の患者数が平均64.8人、外来・再診の患者数が平均400.5人、入院患者数が平均298.3人であった。

図表 2-7 1か月の延べ患者数（令和4年6月1か月間）

<全体>	施設数	平均（人）	標準偏差	中央値
外来・初診 患者数	176	64.8	81.9	34
外来・再診 患者数	177	400.5	489.5	246
入院 患者数	3	298.3	214.4	236

<一般診療所>

	施設数	平均（人）	標準偏差	中央値
外来・初診 患者数	66	85.7	109.9	500.0
外来・再診 患者数	68	591.8	639.6	3383.0
入院 患者数	3	298.3	214.4	236

<歯科診療所>

	施設数	平均（人）	標準偏差	中央値
外来・初診 患者数	110	52.3	56.0	290.0
外来・再診 患者数	109	281.1	315.1	200
入院 患者数	—	—	—	—

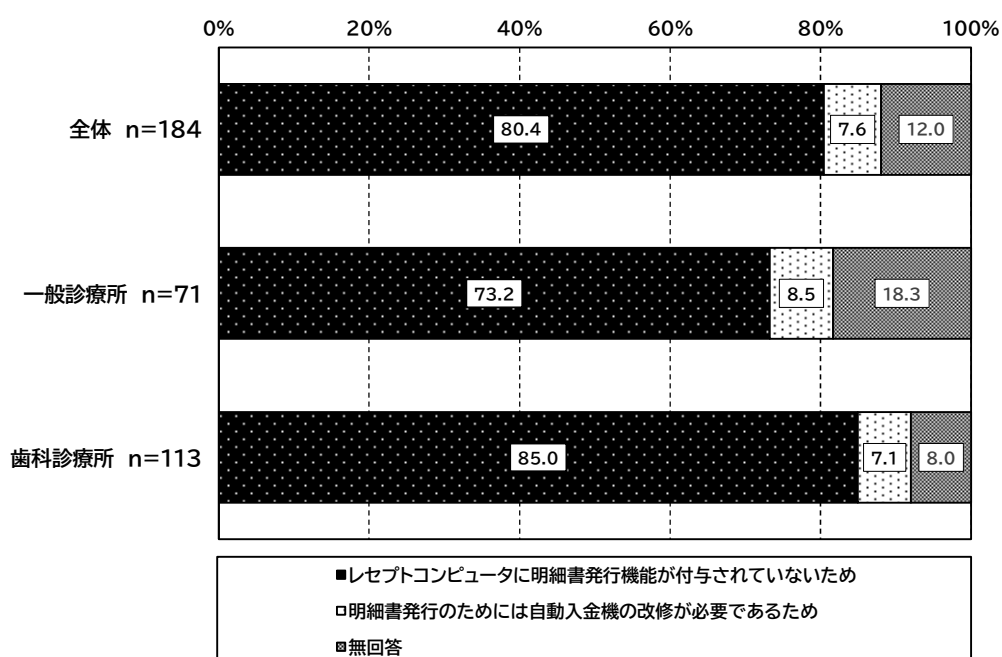
(2) 「正当な理由」の届出

① 施設が該当する「正当な理由」

施設が該当する「正当な理由」は、「レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与されていないため」が80.4%、「明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため」が7.6%であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、「レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与されていないため」の割合が、一般診療所が73.2%であるのに対し、歯科診療所では85.0%であった。

図表 2-8 施設が該当する「正当な理由」

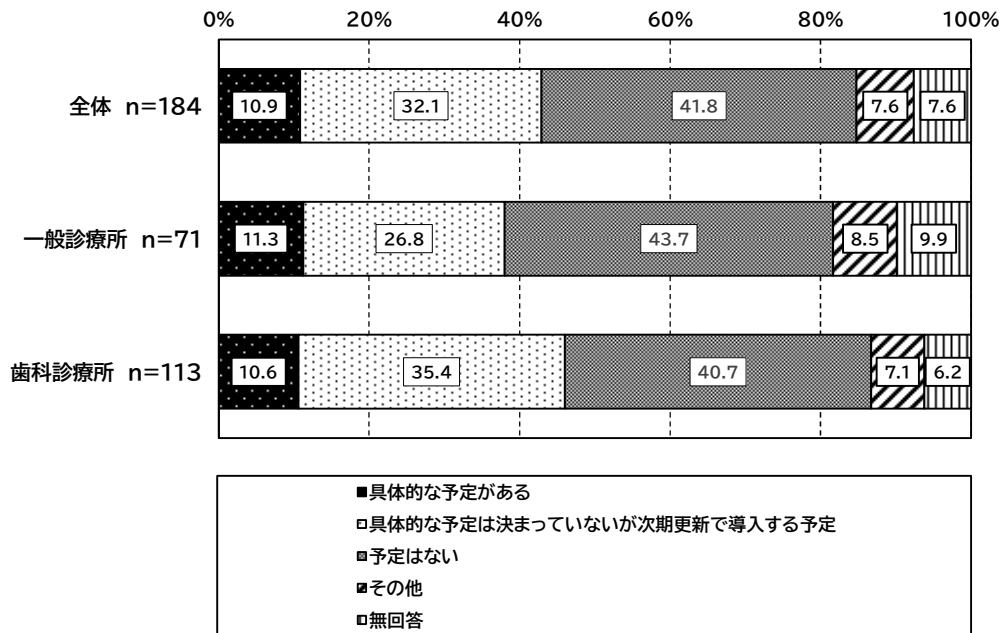


② 全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定の有無

全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定の有無について、「具体的な予定がある」が10.9%、「具体的な予定は決まっていないが次期更新で導入する予定」が32.1%、そして「予定はない」が41.8%であった。また、「具体的な予定がある」と答えた20施設について明細書無料発行予定時期をみると、令和4年度中が50.0%、令和5年度中が35.0%であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、予定の有無については両者に大きな差はみられなかったが、明細書無料発行予定時期については、一般診療所では令和4年度中が75.0%、令和5年度中が12.5%であるのに対し、歯科診療所では令和4年度中が33.3%、令和5年度中が50.0%であった。

図表 2-9 全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定の有無



図表 2-10 明細書無料発行予定時期（具体的な予定がある施設）

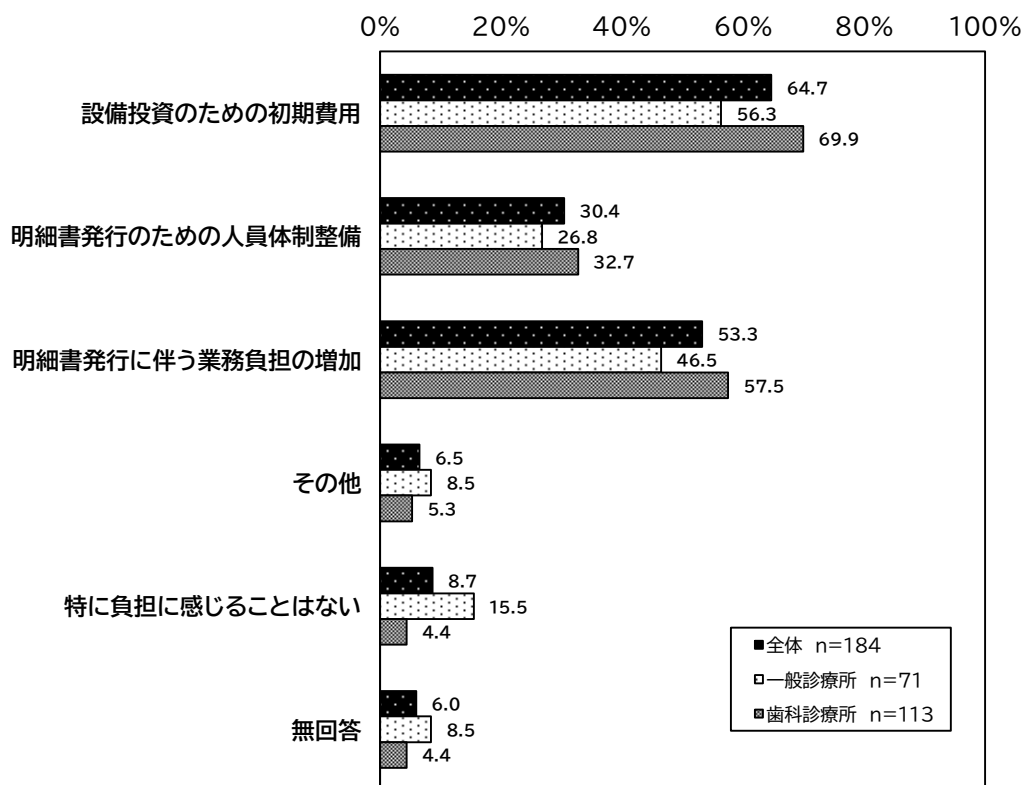
年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	合計
全体	施設数	10施設	7施設	2施設	0施設	0施設	1施設	20施設
	構成比	50.0%	35.0%	10.0%	0.0%	0.0%	5.0%	100.0%
一般診療所	施設数	6施設	1施設	1施設	0施設	0施設	0施設	8施設
	構成比	75.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
歯科診療所	施設数	4施設	6施設	1施設	0施設	0施設	1施設	12施設
	構成比	33.3%	50.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%

③ 全患者に明細書を無料で発行する場合の課題

全患者に明細書を無料で発行する場合の課題について、「設備投資のための初期費用」が最も多く64.7%で、次いで「明細書発行に伴う業務負担の増加」が53.3%、「明細書発行のための人員体制整備」が30.4%であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、「設備投資のための初期費用」の割合が、一般診療所が56.3%であるのに対し、歯科診療所では69.9%であった。

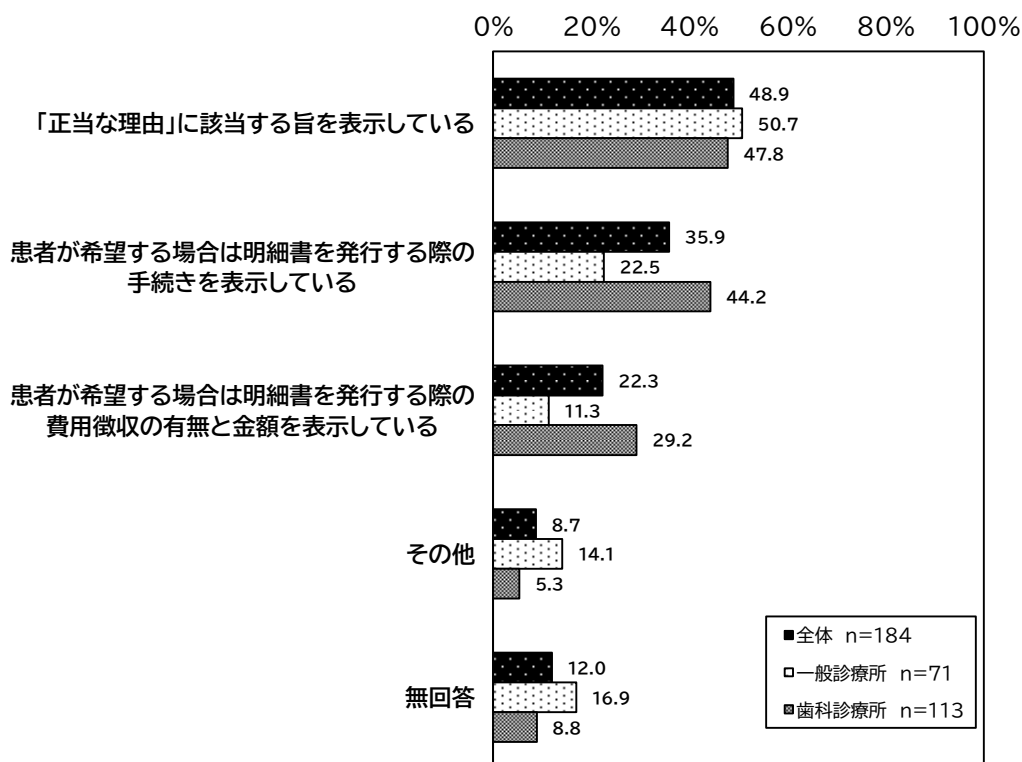
図表 2-11 全患者に明細書を無料で発行する場合の課題（複数回答）



④ 院内での「正当な理由」に該当する旨等の表示有無

院内での「正当な理由」に該当する旨等の表示について、「正当な理由に該当する旨を表示している」が48.9%で最も多く、次いで「患者が希望する場合は明細書を発行する際の手続きを表示している」が35.9%、「患者が希望する場合は明細書を発行する際の手続きを表示している」の割合が、一般診療所が22.5%であるのに対し、歯科診療所では44.2%であった。また「患者が希望する場合は明細書を発行する際の手続きを表示している」の割合が、一般診療所が11.3%であるのに対し、歯科診療所では29.2%であった。

図表 2-12 院内での「正当な理由」に該当する旨等の表示有無（複数回答）



⑤ 現在までに明細書発行の無償化に向けて取り組んだ事項

現在までに明細書発行の無償化に向けて取り組んだ事項としては、「必要な体制や費用の見積もり」の他、「手書きで対応」等の取組例が挙げられた。

【必要な体制や費用を検討した】

- 必要な費用、体制整備の見積りを実施。
- レセプトコンピュータの付加機能や消耗品についての確認。
- レセプトコンピュータ業者（ベンダー）と相談。
- レセプトソフトのサポートセンターへ問合せをして、追加費用での対応可能であることを確認。
- ソフトを拡充して明細書発行が可能に。

【手書きで対応している】

- 希望する患者へは手書き用の明細書を準備（使用実績はなし）。
- 手書きでも無償になるよう努力。
- 手書きで作成するためテンプレートを作成し、無償で発行。

【その他】

- 希望者はほぼ全例交通事故で保険請求に必要な人であり、希望者にはレセプトを無償で発行。
- 明細書希望の時は翌日、無償にて発行（発行まで待てる方は当日渡し）。
- 過去に希望する患者がいない。
- 希望者から申し出があった場合は無償で発行する準備。

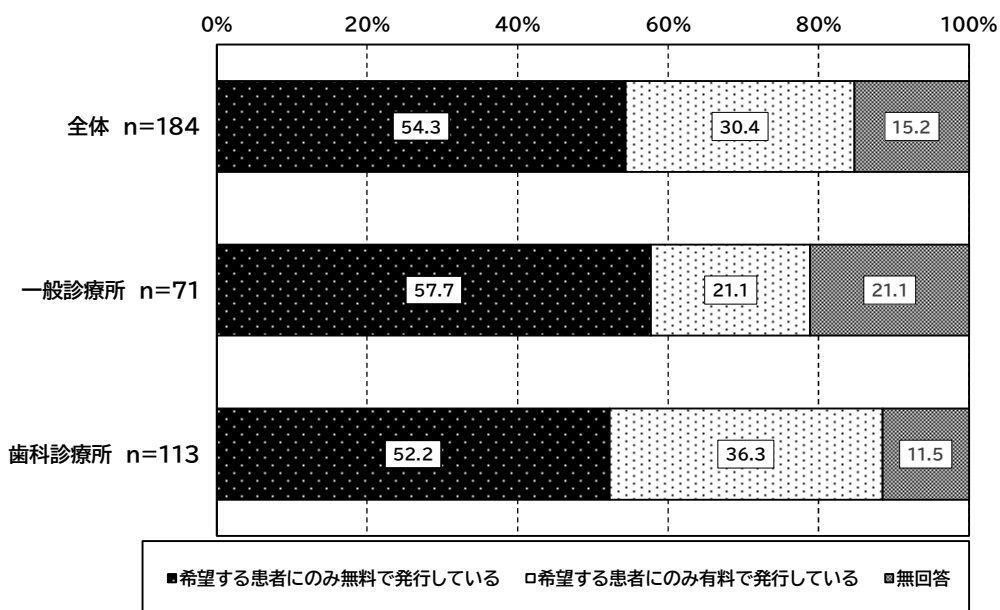
(3) 患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応

① 明細書発行状況

明細書の発行状況は「希望する患者にのみ無料で発行している」が54.3%、「希望する患者にのみ有料で発行している」が30.4%であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、「希望する患者にのみ有料で発行している」の割合が、一般診療所が21.1%であるのに対し、歯科診療所では36.3%であった。

図表 2-13 無料・有料の区別



令和4年6月1か月間の発行件数は無料が平均5.4件、有料が平均25.2件であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、一般診療所では無料発行が平均9.2件、有料発行が平均2.6件であるのに対し、歯科診療所では無料発行が平均94.0件、有料発行が平均0.0件であった。

図表 2-14 無料・有料の発行件数

		施設数	平均値 (件)	標準偏差	中央値
全体	無料で発行	90	5.4	30.5	0
	有料で発行	56	25.2	188.4	0
一般診療所	無料で発行	39	9.2	44.0	0
	有料で発行	15	94.0	364.1	0
歯科診療所	無料で発行	51	2.6	13.1	0
	有料で発行	41	0.0	0.0	0

また有料で発行している場合の1件当たりの徴収金額は平均504.4円であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、一般診療所では平均157.3円であるのに対し、歯科診療所では平均607.6円であった。

図表 2-15 有料で発行している場合の1件当たりの徴収金額

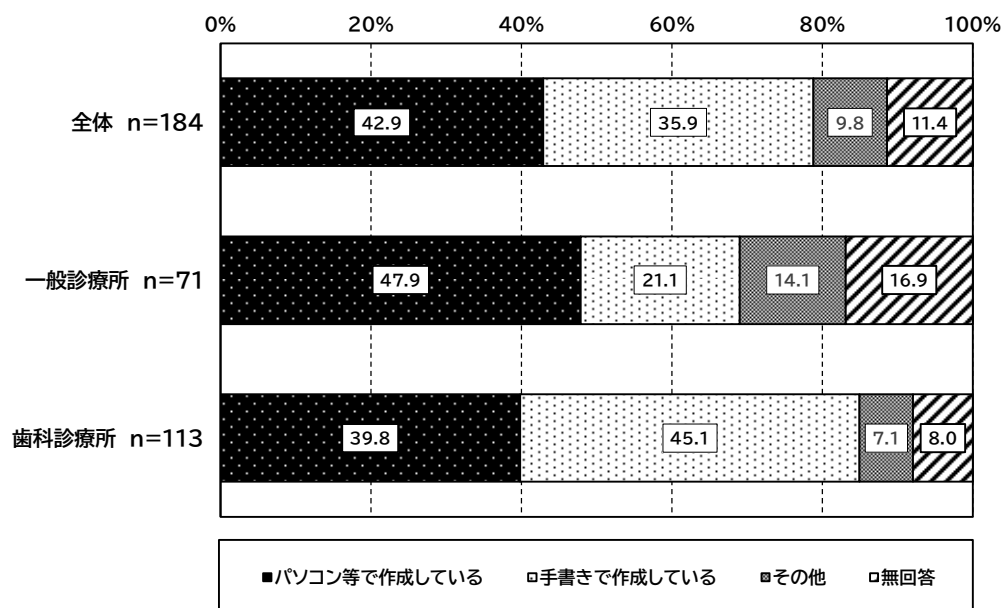
	施設数	平均値 (円)	標準偏差	中央値
全体	48	504.4	616.1	500
一般診療所	11	157.3	177.5	100
歯科診療所	37	607.6	662.6	500

② 明細書の作成・発行方法

明細書の作成方法について、「パソコン等で作成している」が42.9%、「手書きで作成している」が35.9%であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、「手書きで作成している」の割合が、一般診療所が21.1%であるのに対し、歯科診療所では45.1%であった。

図表 2-16 明細書の作成方法

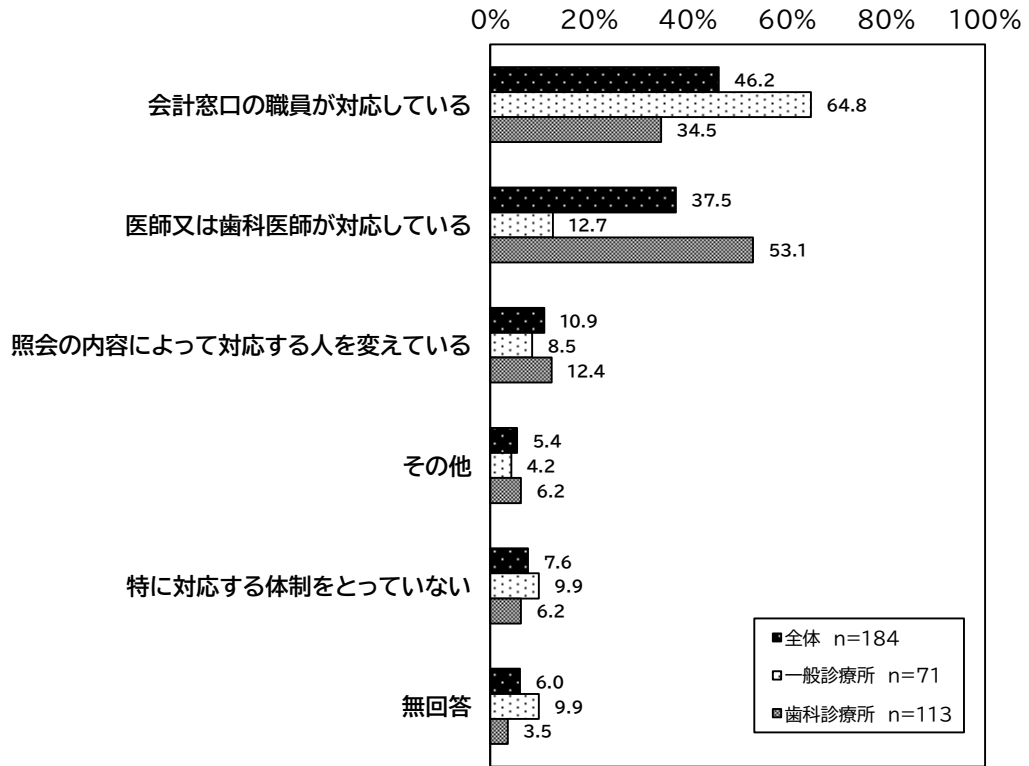


③ 明細書の問い合わせ体制

患者からの明細書の内容等の問合せに対応する体制は、「会計窓口の職員が対応している」が最も多く46.2%で、次いで「医師又は歯科医師が対応している」が37.5%、「照会の内容によって対応する人を変えている」が10.9%であった。なお、「特に対応する体制をとっていない」は7.6%であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、「会計窓口の職員が対応している」の割合が、一般診療所が64.8%であるのに対し、歯科診療所では34.5%であった。また「医師又は歯科医師が対応している」の割合が、一般診療所が12.7%であるのに対し、歯科診療所では53.1%であった。

図表 2-17 明細書の問い合わせ体制（複数回答）



④ レセプトコンピュータの改修時期と自動入金機の有無

④-1 レセプトコンピュータの直近改修時期

レセプトコンピュータの直近の改修時期は、平成20年以前が7.9%、平成21年から平成30年が46.1%、令和元年（平成31年）から令和4年が46.1%であった。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、直近5年間に改修した割合は両者で大きな差はみられなかった。

図表 2-18 レセプトコンピュータの直近改修時期

年		平成20年以前	平成21年～平成30年	令和元年～令和4年	合計
全体	施設数	6施設	35施設	35施設	76施設
	構成比	7.9%	46.1%	46.1%	100.0%
一般診療所	施設数	1施設	14施設	12施設	27施設
	構成比	3.7%	51.9%	44.4%	100.0%
歯科診療所	施設数	5施設	21施設	23施設	49施設
	構成比	10.2%	42.9%	46.9%	100.0%

④-2 レセプトコンピュータの次の改修予定時期

レセプトコンピュータの改修予定時期は、「令和5年頃」と「令和6年頃」で47.7%と全体の約半数を占めていた。

これを一般診療所・歯科診療所別にみると、「令和5年頃」の割合が一般診療所では12.5%であるのに対し、歯科診療所では32.1%であった。また「令和10年頃以降」の割合は、一般診療所では31.3%であるのに対し、歯科診療所では17.9%であった。

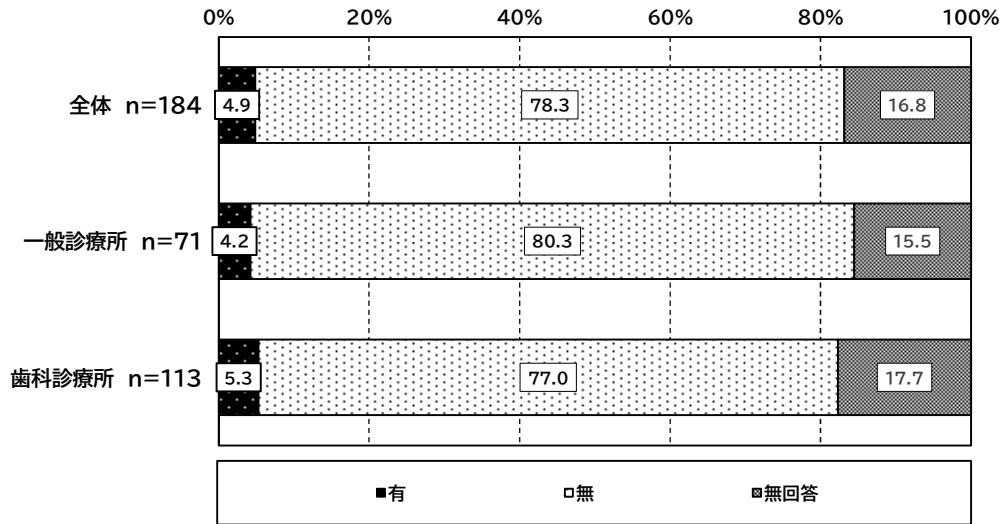
図表 2-19 レセプトコンピュータの次の改修時期

	全体		一般診療所		歯科診療所	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
令和5年頃	11	25.0%	2	12.5%	9	32.1%
令和6年頃	10	22.7%	5	31.3%	5	17.9%
令和7年頃	7	15.9%	2	12.5%	5	17.9%
令和8年頃	1	2.3%	0	0.0%	1	3.6%
令和9年頃	5	11.4%	2	12.5%	3	10.7%
令和10年頃以降	10	22.7%	5	31.3%	5	17.9%
	44	100.0%	16	100.0%	28	100.0%

④-3 自動入金機の有無

自動入金機の有無は、「有」が4.9%、「無」が78.3%であった。
これを一般診療所・歯科診療所別にみると、両者に大きな差はみられなかった。

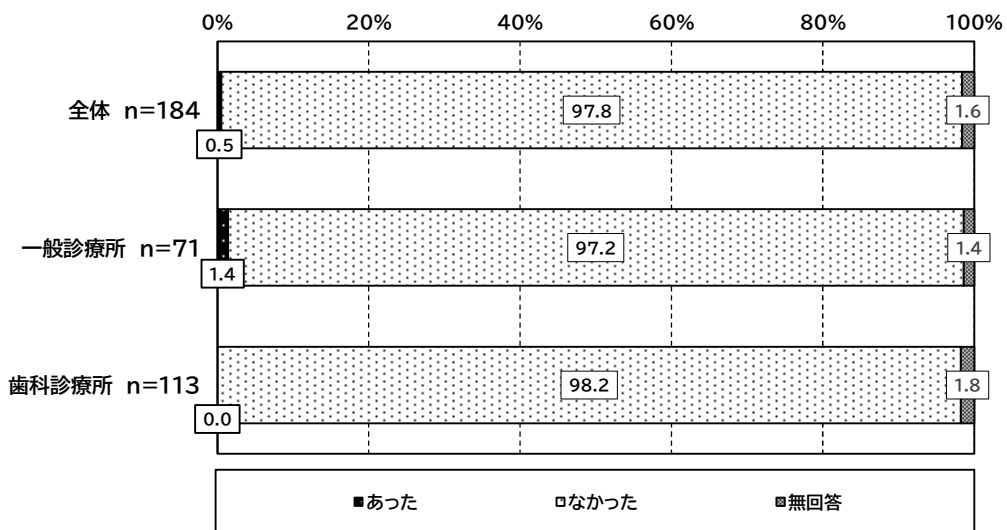
図表 2-20 自動入金機の有無



⑤ 明細書の内容についての問合せ

令和4年6月1か月間の患者から明細書の内容についての問合せは「あった」が0.5%、「なかった」が97.8%であった。

図表 2-21 明細書の内容への問合せの有無



【内容について問合せがあった場合】

⑥-1 明細書についての患者からの問合せ項目

患者からの問合せが「あった」医療機関は1施設であったが、問合せの内意用は「診療月日」と「診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む）」であった。

(4) 明細書の無料発行に当たっての課題

① 明細書の無料発行が義務化された場合、対応に必要な期間(年)

対応に必要な期間は、平均2.5年であった。

図表 2-22 対応に必要な期間(/年)

	施設数	平均値 (年)	標準偏差	中央値
全体	75	2.5	2.4	2
一般診療所	26	2.1	1.9	2
歯科診療所	49	2.7	2.6	2

② 上記①の年数が必要な理由

対応に必要な期間を要する理由としては、対応可能・対応不可いずれについても、「レセプトコンピュータ改修等の費用負担」「受付にレセプトコンピュータを置くスペースの確保」「新しいレセプトコンピュータに対応できる人材の確保」等が課題として挙げられていた。

【対応可能】

＜レセプトコンピュータ改修等の費用負担＞

- コロナによる患者減による減収に加え、オンライン資格確認義務化に伴う環境整備にも費用を捻出せねばならず、新しいコンピュータを導入する余裕がない。
- レセプトコンピュータ改修するための費用、確保が必要なため。
- 明細書発行機能の付加されたレセプトコンピュータの導入が必要であり、その為の費用確保が必要となるため。
- レセプトコンピュータの機種（ソフト）の変更が必要となると思われ、どの機種（ソフト）を採用するかを選考と、選考後の操作法習得のための期間が必要であるため。

＜受付にレセプトコンピュータを置くスペースの確保＞

- 設備の変更が必要なため。
- 費用と場所と人材の確保に時間がかかるため。

＜新しいレセプトコンピュータに対応できる人材の確保＞

- 明細書発行のための人員体制の整備と業務を円滑に遂行するための準備のため。
- 対応できる人材が不足している。

【対応不可】

＜レセプトコンピュータ改修等の費用負担＞

- レセプトコンピュータを買い換えるための費用の確保が困難なため。
- レセプトコンピュータもソフトも新調するのは不可能なため。
- マイナンバーのカードリーダーや電子処方箋等の導入を優先させているため、現時点では費用の問題で難しい。
- レセプトコンピュータが故障して買い替える際に合わせて検討する。

＜受付にレセプトコンピュータを置くスペースの確保＞

- レセプトコンピュータの設置場所及び内科深夜時間帯のレセプトコンピュータを操作できる人材確保が困難なため。

＜新しいレセプトコンピュータに対応できる人材の確保＞

- レセプトコンピュータの導入から考えなければならない。コンピュータを扱える事務職員も必要である。常勤かパート数名が必要となるが、その費用の確保も難しい。
- 初期費用に加え、仕事量の増加に対応する人員体制の確保が課題となる。

3. 訪問看護調査

【調査対象等】

○調査票 事業所票

調査対象：機能強化型訪問看護ステーションの全事業所（862 事業所）と機能強化型以外の訪問看護ステーション 1000 事業所 合計 1,862 事業所

回 答 数：823 事業所

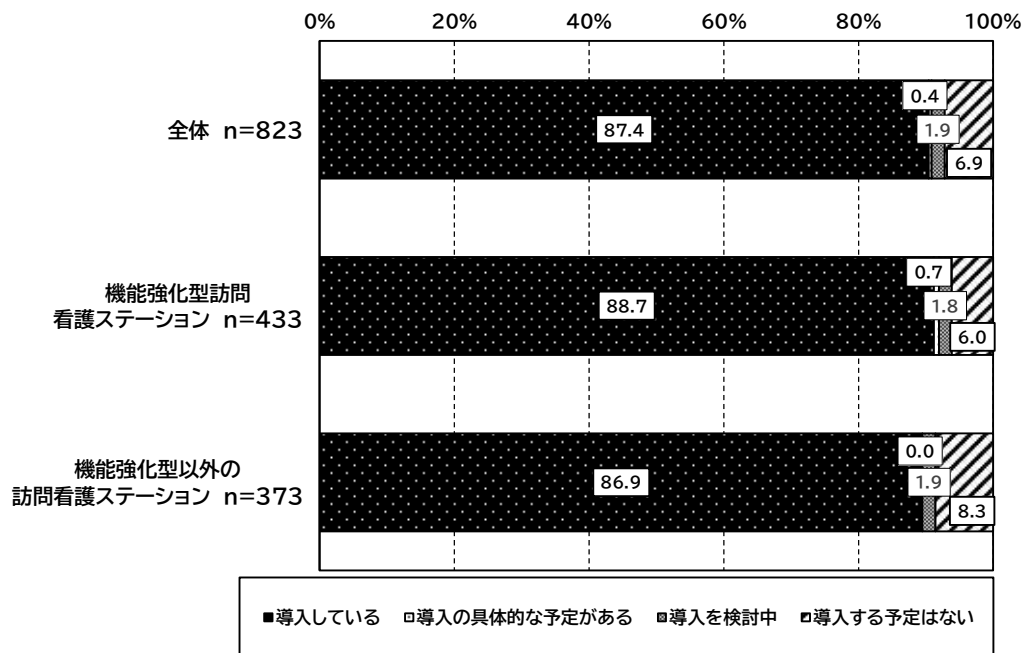
回 答 者：開設者・管理者

(1) レセプト請求方法

① レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況

レセプトコンピュータ等による医事会計システムを「導入している」は87.4%であり、その割合は、機能強化型訪問看護ステーションと機能強化型以外の訪問看護ステーションとで大きな差はなかった。

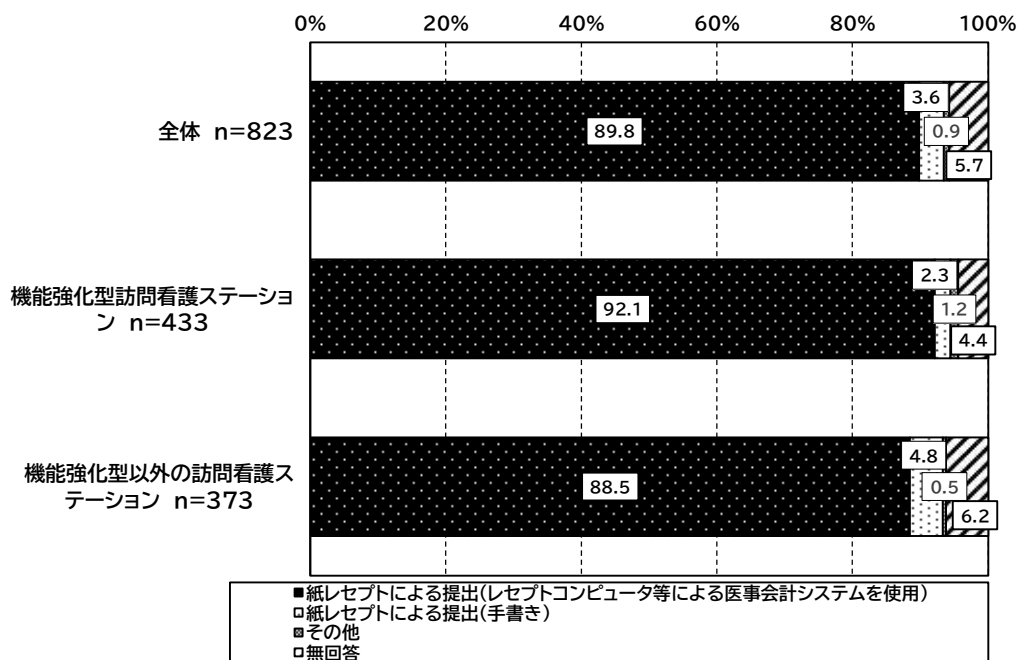
図表 3-1 医事会計システムの導入状況



② 医療保険のレセプト請求方法

医事保険のレセプト請求方法としては、「紙レセプトによる提出（レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用）」が89.8%、「紙レセプトによる提出（手書き）」が3.6%であり、その割合は、機能強化型訪問看護ステーションと機能強化型以外の訪問看護ステーションとで大きな差はなかった。

図表 3-2 医療保険のレセプト請求方法



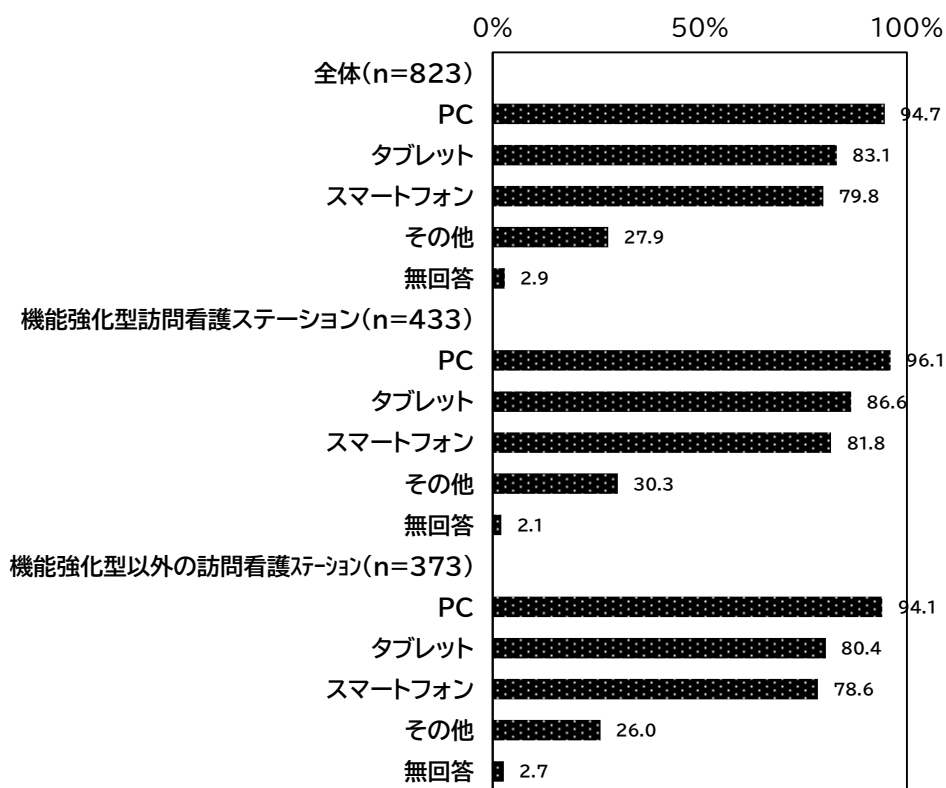
③ 業務で使用している ICT 機器の状況

業務で使用している ICT 機器としては、「PC」が94.7%、「タブレット」が83.1%、「スマートフォン」が79.8%であった。その割合は、機能強化型訪問看護ステーションと機能強化型以外の訪問看護ステーションとで大きな差はなかった。

また使用している ICT 機器の台数は、「PC」が1事業所当たり平均7.5台、「タブレット」が同10.2台、「スマートフォン」が同8.1台であった。これを機能強化型訪問看護ステーションと機能強化型以外の訪問看護ステーションとで比較すると、機能強化型訪問看護ステーションの方が使用している台数が多かった。

さらにこれらの機器が「公用」である割合は、「PC」が95.4%、「タブレット」が78.7%、「スマートフォン」が69.4%であった。その割合は、機能強化型訪問看護ステーションと機能強化型以外の訪問看護ステーションとで大きな差はなかった。

図表 3-3 使用している ICT 機器の種類



図表 3-4 使用している ICT 機器の台数

		事業所数	平均値 (台)	標準偏差	中央値
全体	PC	759	7.5	6.3	6
	タブレット	558	10.2	8.9	9
	スマートフォン	525	8.1	8.0	6
	その他	106	6.8	6.0	4
機能強化型訪問看護ステーション	PC	400	9.5	7.4	8
	タブレット	308	13.1	10.0	11
	スマートフォン	271	10.0	9.3	9
	その他	59	8.6	6.9	8
機能強化型以外の訪問看護ステーション	PC	347	5.3	3.7	4
	タブレット	241	6.8	5.8	5
	スマートフォン	246	6.1	5.7	4
	その他	46	4.6	3.7	3.5

図表 3-5 ICT 機器の公用・私用の区別

(上段：件数 下段：構成比)		合計	公用	私用	公用兼 私用	無回答
全体	PC	779 100.0	743 95.4	0 0.0	7 0.9	29 3.7
	タブレット	684 100.0	538 78.7	3 0.4	8 1.2	135 19.7
	スマートフォン	657 100.0	456 69.4	29 4.4	19 2.9	153 23.3
	その他	230 100.0	99 43.0	1 0.4	3 1.3	127 55.2
機能強化型 訪問看護ス テーション	PC	416 100.0	394 94.7	0 0.0	3 0.7	19 4.6
	タブレット	375 100.0	306 81.6	1 0.3	2 0.5	66 17.6
	スマートフォン	354 100.0	244 68.9	14 4.0	7 2.0	89 25.1
	その他	131 100.0	55 42.0	1 0.8	0 0.0	75 57.3
機能強化型 以外の訪問 看護ステー ション	PC	351 100.0	338 96.3	0 0.0	4 1.1	9 2.6
	タブレット	300 100.0	223 74.3	2 0.7	6 2.0	69 23.0
	スマートフォン	293 100.0	207 70.6	14 4.8	11 3.8	61 20.8
	その他	97 100.0	43 44.3	0 0.0	3 3.1	51 52.6

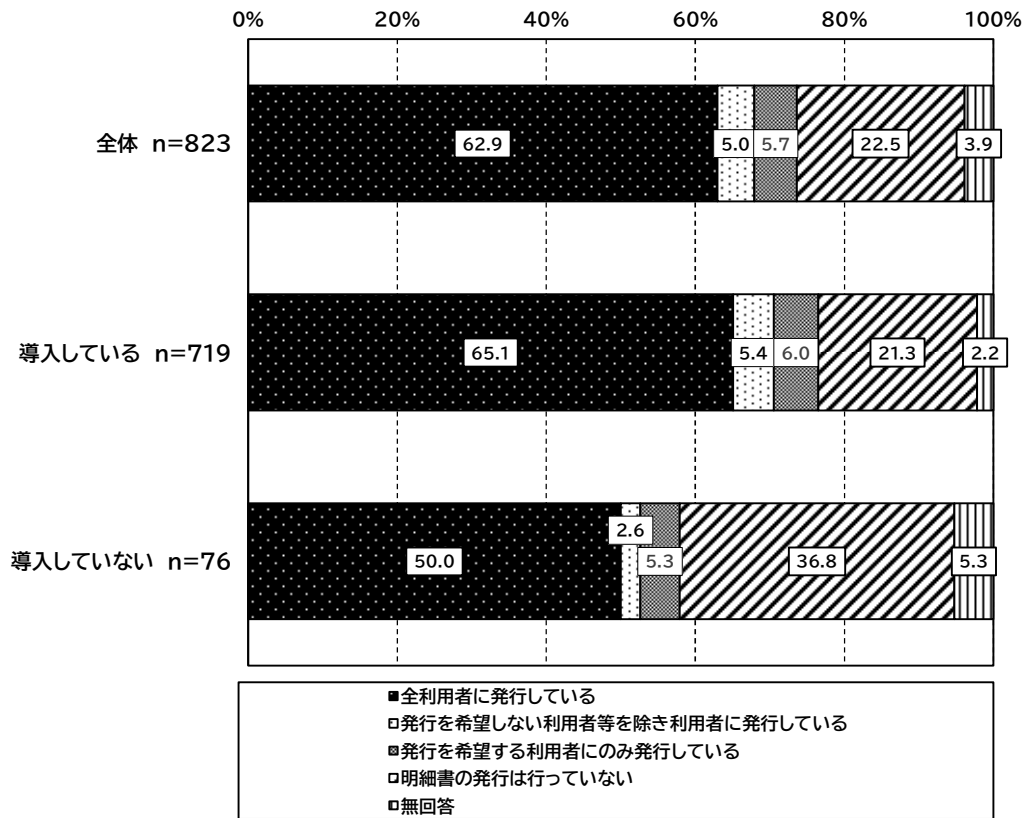
(2) 明細書の発行状況、発行体制、利用者の反応

① 明細書の発行状況

明細書の発行状況については、「全利用者に発行している」は62.9%で、「明細書の発行は行っていない」は22.5%であった。これをレセプトコンピュータ等による医事会計システム導入の有無別にみると、導入している事業所では「全利用者に発行している」が65.1%、「明細書の発行は行っていない」が21.3%である一方、導入していない事業所では「全利用者に発行している」が50.0%で、「明細書の発行は行っていない」が36.8%であった。

また、それぞれの状況における発行枚数は、平均値は「全利用者に発行」している場合が73.5枚、「発行を希望しない利用者等を除き利用者に発行」している場合が46.8枚、そして「発行を希望する利用者」にのみ発行している場合が8.6枚であった。

図表 3-6 明細書の発行状況



図表 3-7 明細書の発行枚数

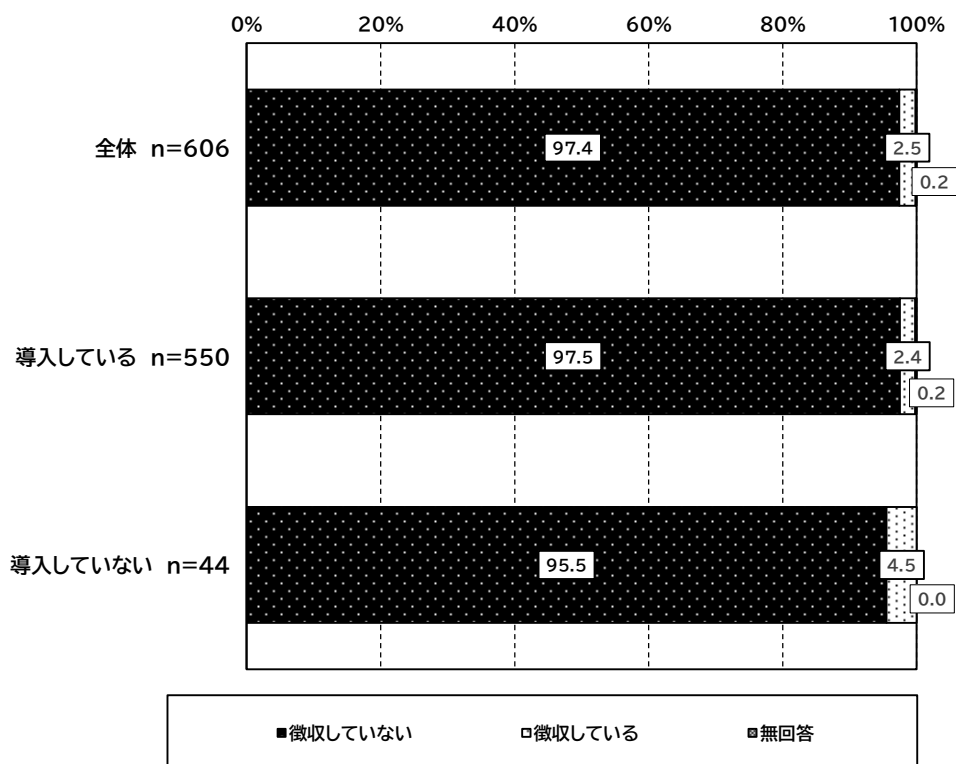
	事業所数	平均値 (枚)	標準偏差	中央値
全利用者に発行	399	73.5	138.2	42
発行を希望しない利用者等を除き利用者に発行	39	46.8	48.9	29
発行を希望する利用者にものみ発行	45	8.6	21.3	1

② 利用者からの費用徴収

明細書を発行している訪問看護ステーションにおいて、利用者から費用を「徴収していない」が97.4%、「徴収している」が2.5%であった。これをレセプトコンピュータ等による医事会計システム導入の有無別にみても、大きな違いはみられなかった。

また、徴収している場合、その金額の平均値は6192.2円であった。

図表 3-8 費用徴収の有無



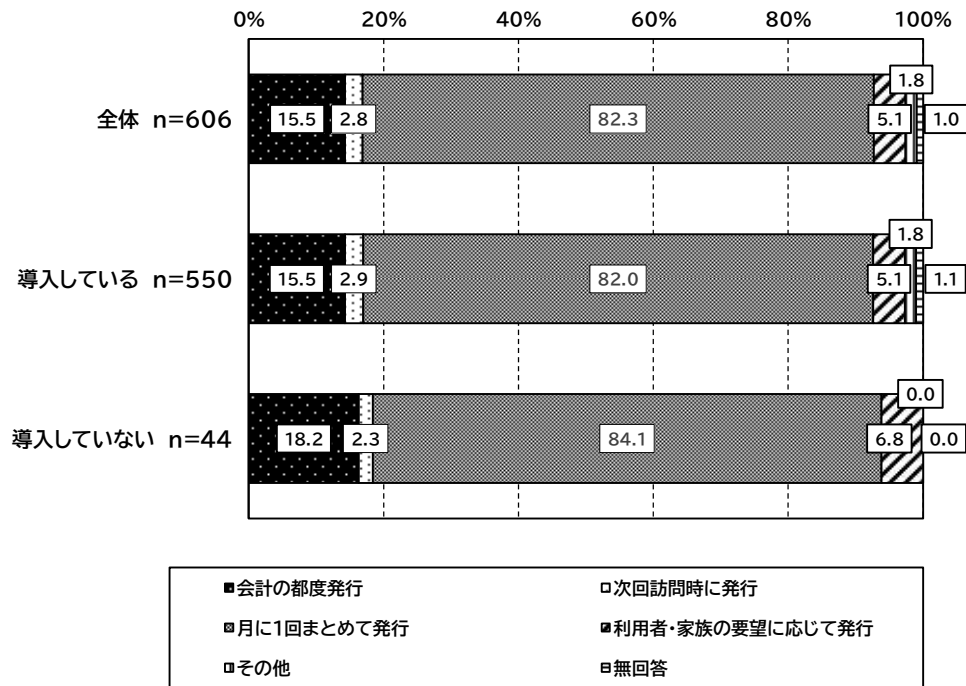
図表 3-9 1件当たりの徴収金額

	事業所数	平均値 (円)	標準偏差	中央値
徴収金額	10	6192.2	4887.0	6911

③ 明細書の発行頻度

明細書を発行している訪問看護ステーションにおいて、明細書の発行頻度は、「月に1回まとめて発行」が最も多く82.3%であり、次いで「会計の都度発行」が15.5%であった。これをレセプトコンピュータ等による医事会計システム導入の有無別にみても、大きな違いはみられなかった。

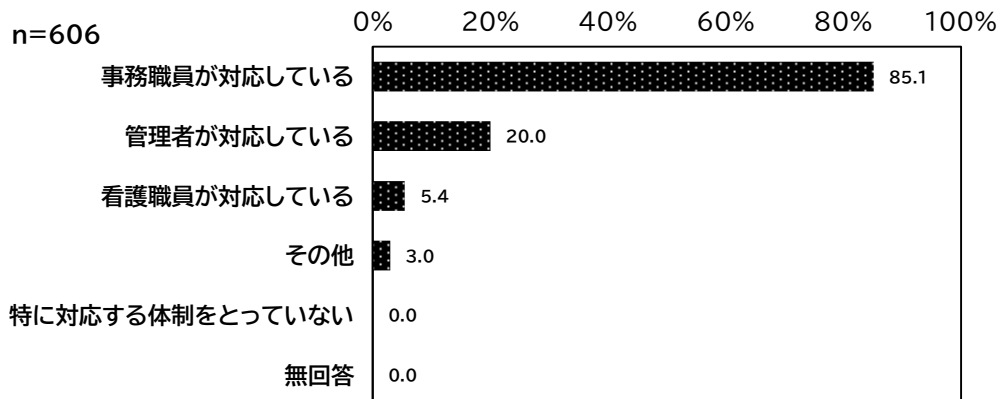
図表 3-10 明細書の発行頻度



④ 明細書の発行体制

明細書の発行は「事務職員が対応している」が最も多く85.1%であり、次いで「管理者が対応している」が20.0%、「看護職員が対応している」が5.4%であった。

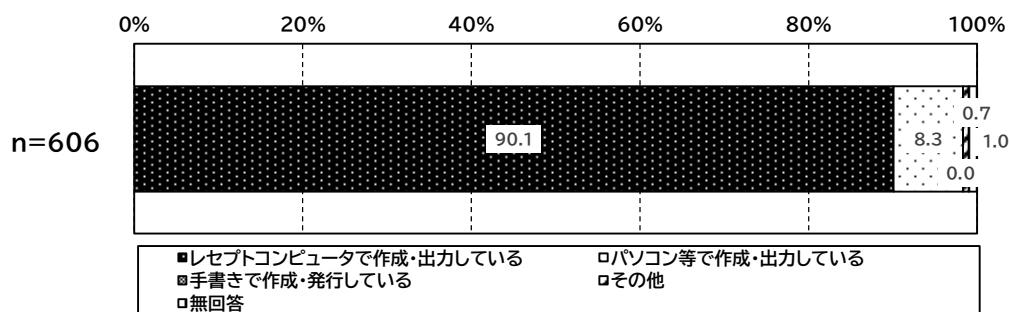
図表 3-11 明細書発行の対応主体



⑤ 明細書の作成・発行方法

明細書の作成・発行方法としては、「レセプトコンピュータで作成・出力している」が最も多く 90.1%で、次いで「パソコン等で作成・出力している」が 8.3%であった。なお「手書きで作成・発行している」は回答がなかった。

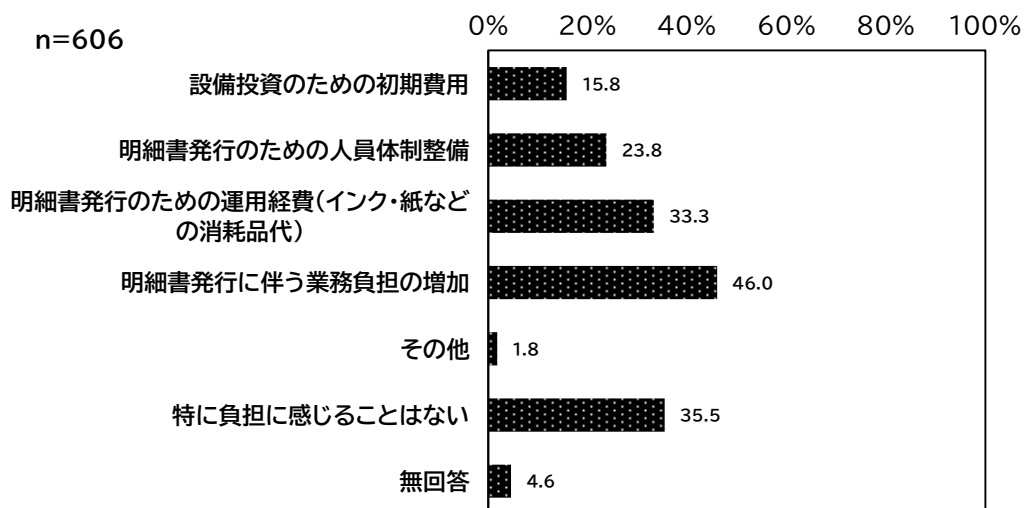
図表 3-12 明細書の作成・発行方法



⑥ 明細書発行体制の整備に当たって、負担となること

明細書発行体制の整備に当たって負担となっていることとしては、「明細書発行に伴う業務負担の増加」が最も多く 46.0%で、次いで「明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）」が 33.3%、「明細書発行のための人員体制整備」が 23.8%であった。なお「特に負担に感じることはない」は 35.5%であった。

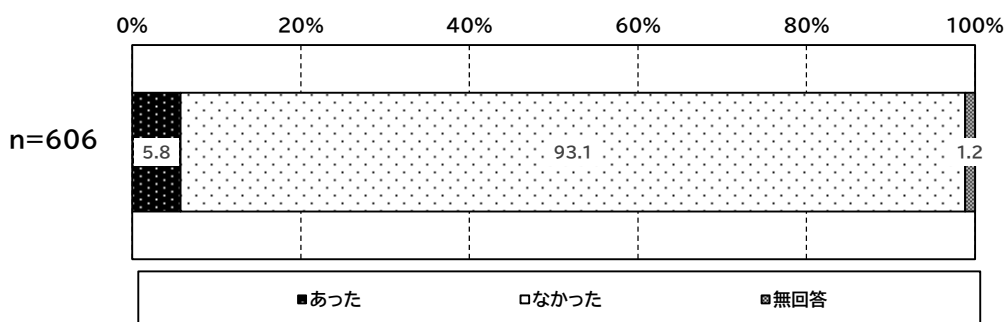
図表 3-13 明細書発行体制の整備に当たり、負担となっていること



⑦ 利用者からの明細書の内容についての問合せ有無

利用者から明細書の内容について問合せが「あった」は5.8%、「なかった」は93.1%であった。

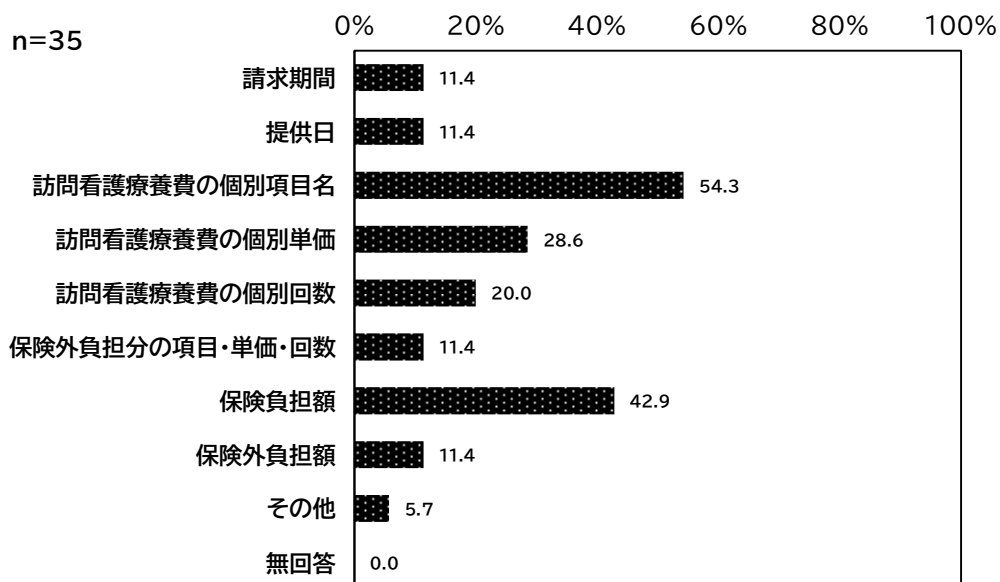
図表 3-14 利用者からの問合せ有無



⑦ - 1 明細書についての利用者からの問合せ項目

明細書について利用者からの問合せがあった項目としては、「訪問看護療養費の個別項目名」が最も多く54.3%で、次いで「保険外負担額」が42.9%、「訪問看護療養費の個別単価」が28.6%であった。

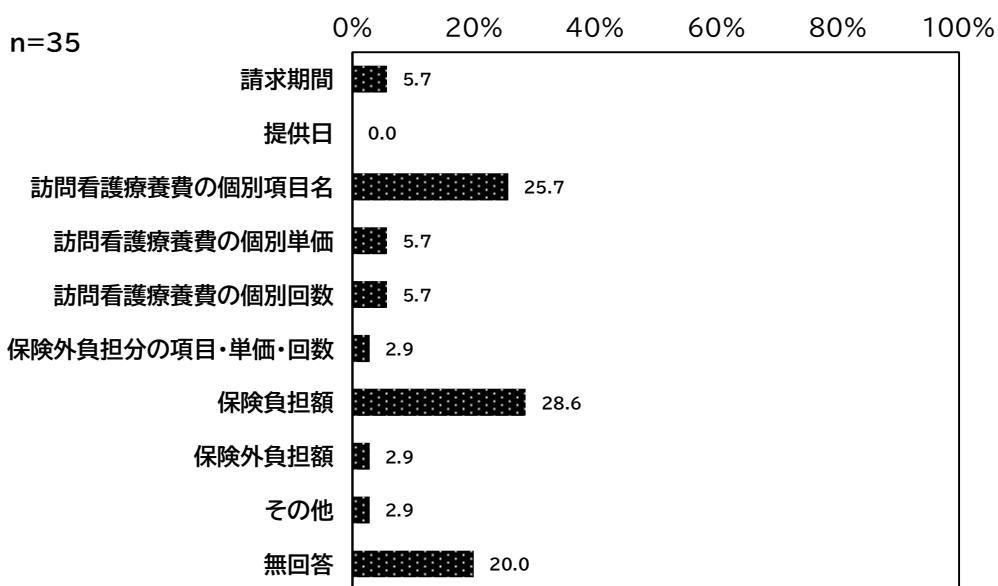
図表 3-15 利用者から多かった問合せ



⑦ -2 問合せで最も多いと回答された項目

明細書について利用者からの問合せが最も多くあった項目としては、「保険負担額」が最も多く 28.6%で、次いで「訪問看護療養費の個別項目名」が 25.7%であった。

図表 3-16 利用者から多かった問合せ

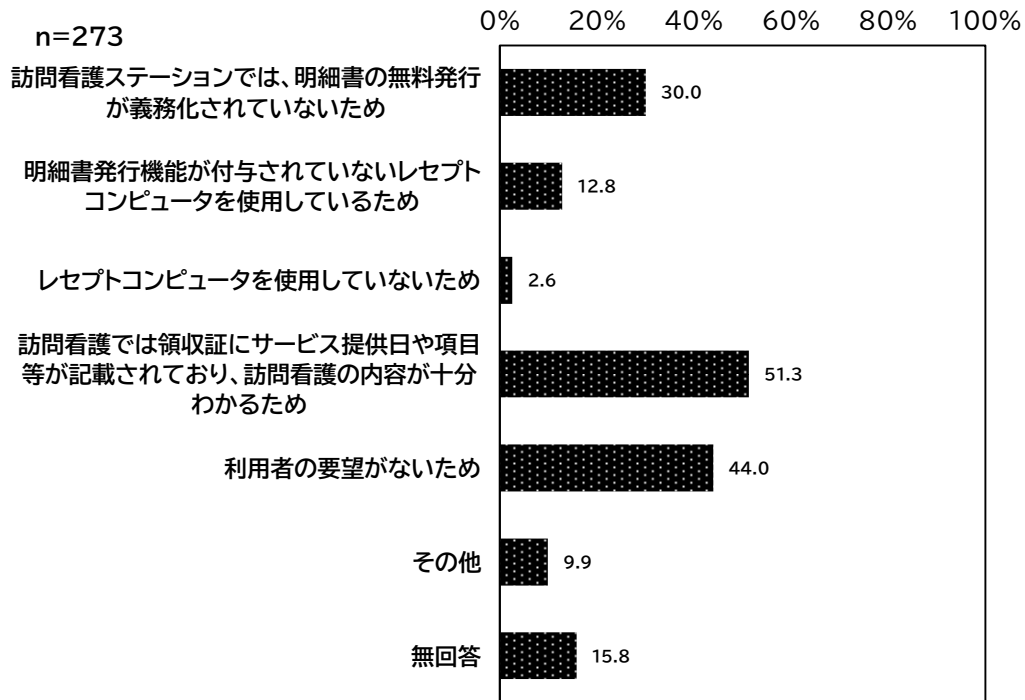


(3) 全利用者に明細書を無料発行していない理由

① 全利用者に明細書を無料発行していない理由

全利用者に明細書を無料発行していない理由として最も多かったものは「訪問看護では領収書にサービス提供日や項目等が記載されており、訪問看護の内容が十分わかるため」で 51.3%であり、次いで、「利用者の要望がないため」が 44.0%、「訪問看護ステーションでは、明細書の無料発行が義務化されていないため」が 30.0%であった。

図表 3-17 全利用者に明細書を無料発行していない理由

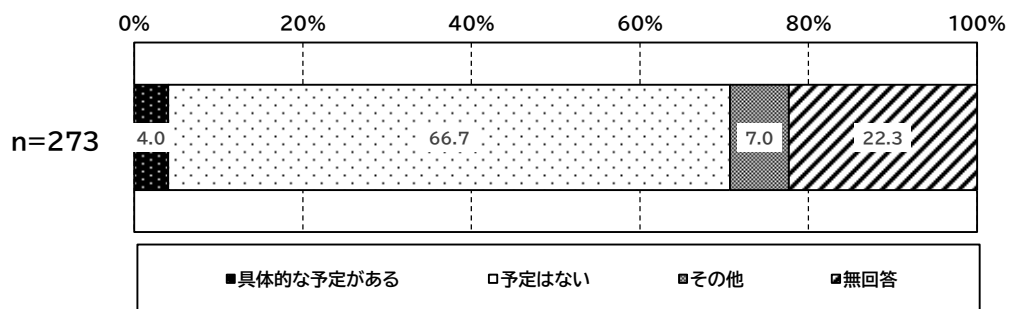


② 今後、全利用者に明細書を無料で発行する体制を整える予定の有無

今後、全利用者に明細書を無料で発行する体制を整える「具体的な予定がある」は4.0%、「予定はない」は66.7%であった。

また、「具体的な予定がある」と回答した施設のうち、最も多かった時期は令和6年4月の4事業所で(36.4%)で、次いで令和5年1月の3事業所(27.3%)であった。

図表 3-18 体制を整える予定の有無



図表 3-19 明細書無料発行の体制を整える時期（年/月）

年	令和4年 12月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 5月	令和5年 10月	令和6年 4月	合計
事業所数	1事業所	3事業所	1事業所	1事業所	1事業所	4事業所	11事業所
構成比	9.1%	27.3%	9.1%	9.1%	9.1%	36.4%	100.0%

(4) 明細書の無料発行に当たっての課題

① 明細書の無料発行が可能となるために必要な期間

明細書の無料発行が可能となるために必要な期間の平均値は5.3年であった。

図表 3-20 無料発行に必要な期間

	事業所数	平均値 (年)	標準偏差	中央値
無料発行に必要な期間	11	5.3	0.6	5

② 上記の期間が必要な理由

必要な期間がわかっている事業所では、「いつでも対応が可能」「レセプトコンピュータの導入後に可能」「ソフトの入替後に可能」という意見が挙げられた。また必要な期間がわからない事業所では、「レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与できるか不明」「領収書で十分だと考えていた」等の意見が挙げられた。

【必要な期間がわかっている事業所】

- 希望があればすぐに発行できる。
- 利用している請求ソフト明細書発行機能があるため、いつでも可能である。
- いつでも提供できる準備はしてあるため、利用者の要望に応じ発行できる。
- ソフトは対応しているので、利用者にお聞きして検討したい。今回の調査で自己負担のない利用者には何も発行していなかったことに気づくことができたので、前向きに検討したい（領収書にはもともと記載されている書式を利用している）。
- レセプトコンピュータの導入を検討中である。
- 2年後にPCシステムの変更を行うため。
- 説明していく期間が必要である。また物品をそろえる必要もある。
- 通常業務が忙しく時間がとれない。
- 発行に向けた事務マニュアルの作成を含めるため。

【必要な期間がわからない事業所】

- レセプトコンピュータに明細発行機能を付与できるのかどうか、いつ付与されるかわからないため。
- レセプトコンピュータにレセコンに明細書出力機能はあるが、不十分と思われる。ソフト会社に機能修正を依頼するのであれば見積、予算と段階をふむ必要がある。
- 請求書や領収書の内容で十分と考えていたため、明細書の発行について考えていなかった。これから取り組まねばならぬのでどの程度時間が必要か分からない。
- 現在使用しているシステムに明細書のメニューを追加依頼しないといけない為システム会社がどのくらいの期間を要するのか分からない。

4. 患者調査（一般診療所・歯科診療所）

【調査対象等】

○調査票 患者票（一般診療所・歯科診療所）

調査対象：全国の「正当な理由」の届出を行っている医療機関を利用している患者

回答数：252人

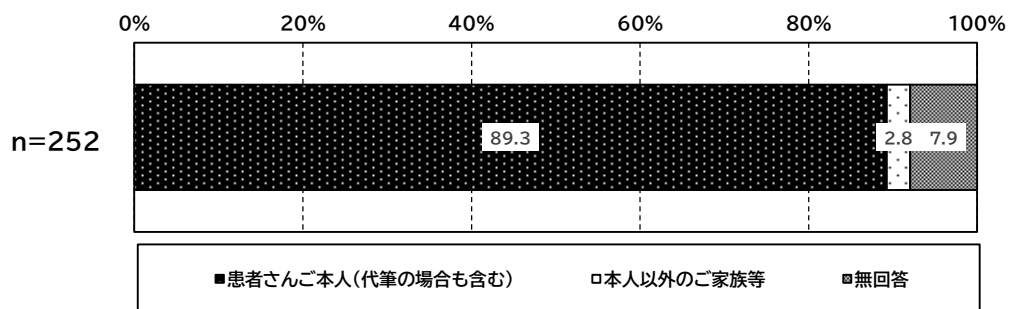
回答者：患者

(1) 調査票の記入者について

① 記入者と利用者の関係

記入者と利用者の関係について見ると、「患者さんご本人（代筆の場合も含む）」が89.3%、「本人以外のご家族等」が2.8%であった。

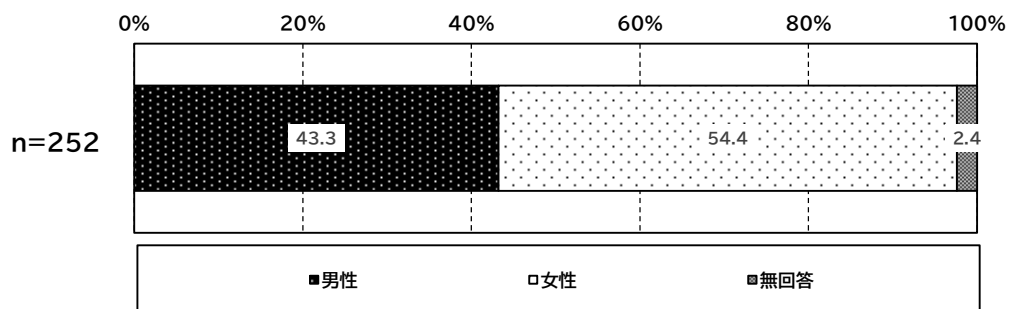
図表 4-1 調査票の記入者



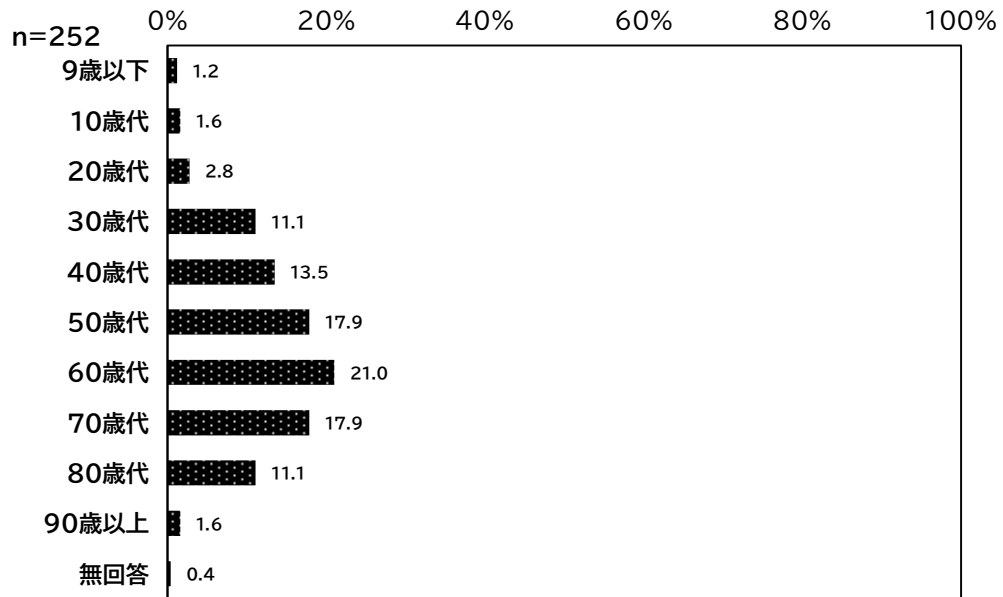
② 患者の性別と年代

患者の性別は男性が43.3%、女性が54.4%であった。また、年代では「60歳代」が最も多く21.0%であり、次いで「50歳代」と「70歳代」が17.9%であった。

図表 4-2 患者の性別



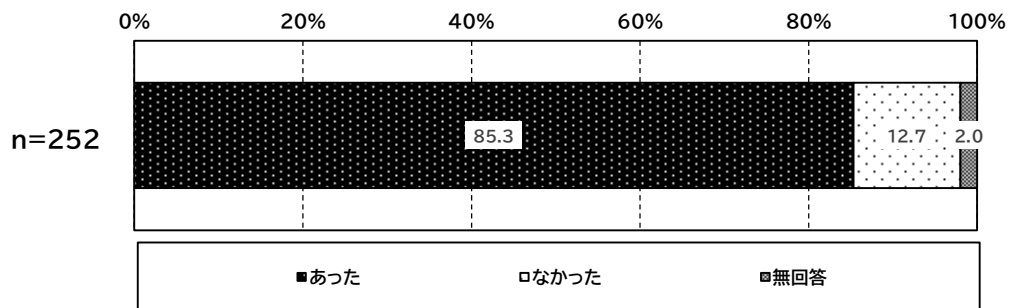
図表 4-3 患者の年代



③ 医療費の自己負担の有無

医療費の自己負担については、「あった」が85.3%、「なかった」が12.7%であった。

図表 4-4 ③ 医療費の自己負担の有無



④ この1か月で診療所に行った回数

診療所に行った回数の平均値は1.7回であった。

図表 4-5 診療所に行った回数

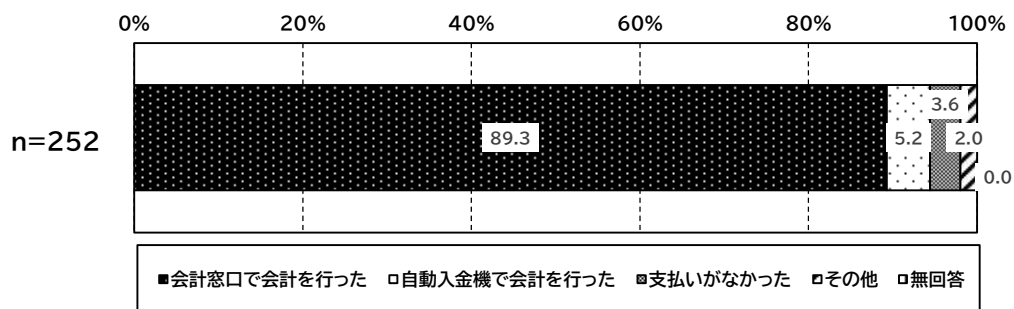
	人数	平均値 (回数)	標準偏差	中央値
診療所に行った回数	239	1.7	1.0	1

(2) 受診日当日の明細書の受け取り状況

① どのように会計を行ったか

会計方法としては、「会計窓口で会計を行った」が89.3%であり、「自動入金機で会計を行った」が5.2%、「支払いがなかった」が3.6%であった。

図表 4-6 会計方法

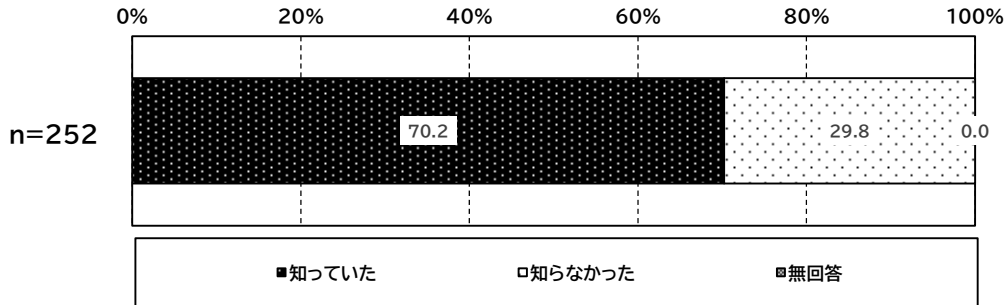


② 診療所での会計の際に明細書を受け取れることを知っていたか

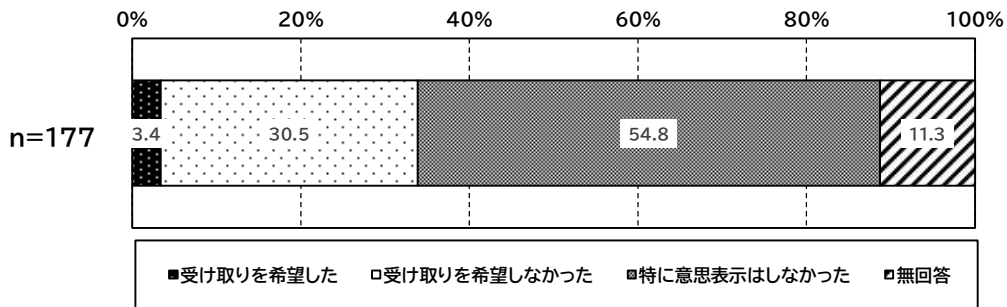
明細書が受け取り可能であることについては、「知っていた」が70.2%、「知らなかった」が29.8%であった。

また、「知っていた」という回答のうち、受け取りを希望したかについては、「受け取りを希望した」が3.4%、「受け取りを希望しなかった」が30.5%、「特に意思表示はしなかった」が54.8%であった。

図表 4-7 明細書が受け取り可能であることの認知



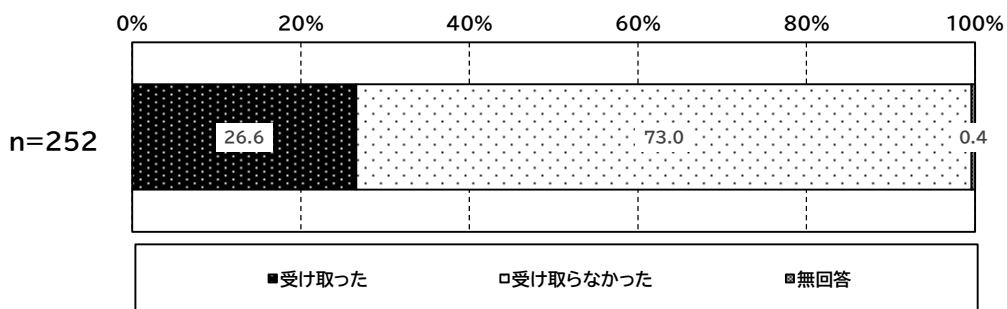
図表 4-8 「知っていた」場合受け取りを希望したか



③ 受診日当日に受診した診療所で明細書を受け取ったか

受診初日に明細書を「受け取った」は26.6%、「受け取らなかった」は73.0%であった。

図表 4-9 明細書受け取りの有無

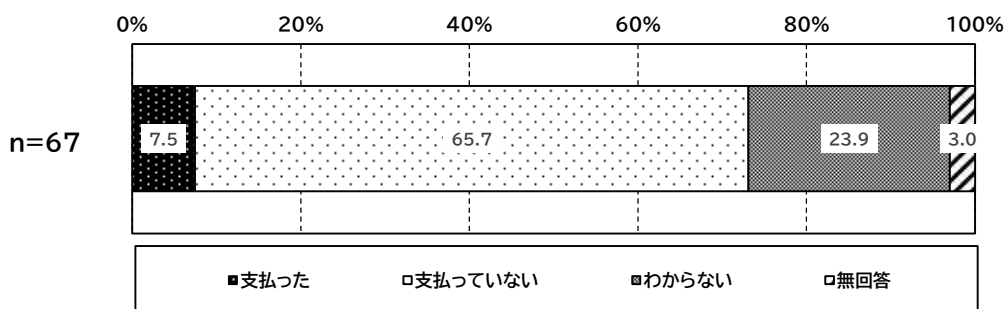


④ 明細書受け取りに当たり手数料を支払ったか

受診初日に明細書を受け取った際に、手数料を「支払った」は7.5%、「支払っていない」は65.7%であった。

また、支払った場合の金額の平均値は408円であった。

図表 4-10 手数料支払いの有無



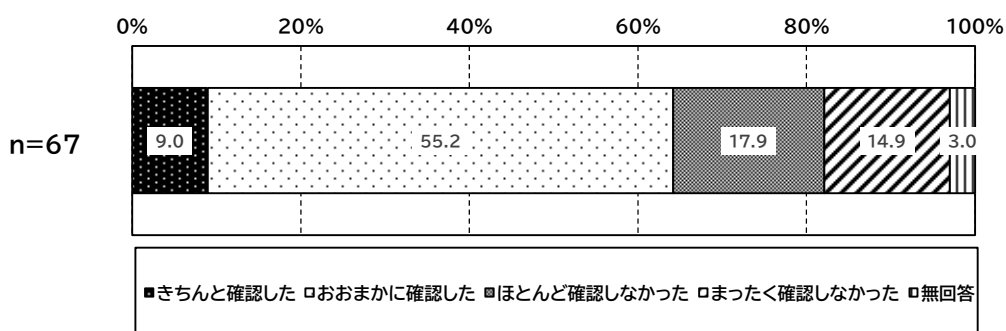
図表 4-11 支払った金額

	人数	平均値 (円)	標準偏差	中央値
支払った金額	5	408.0	890.0	10

⑤ 明細書の内容の確認

明細書の内容の確認については、「確認した（「きちんと確認した」と「おおまかに確認した」の計）」が64.2%、「確認しなかった（「ほとんど確認しなかった」と「まったく確認しなかった」の計）」が32.8%であった。

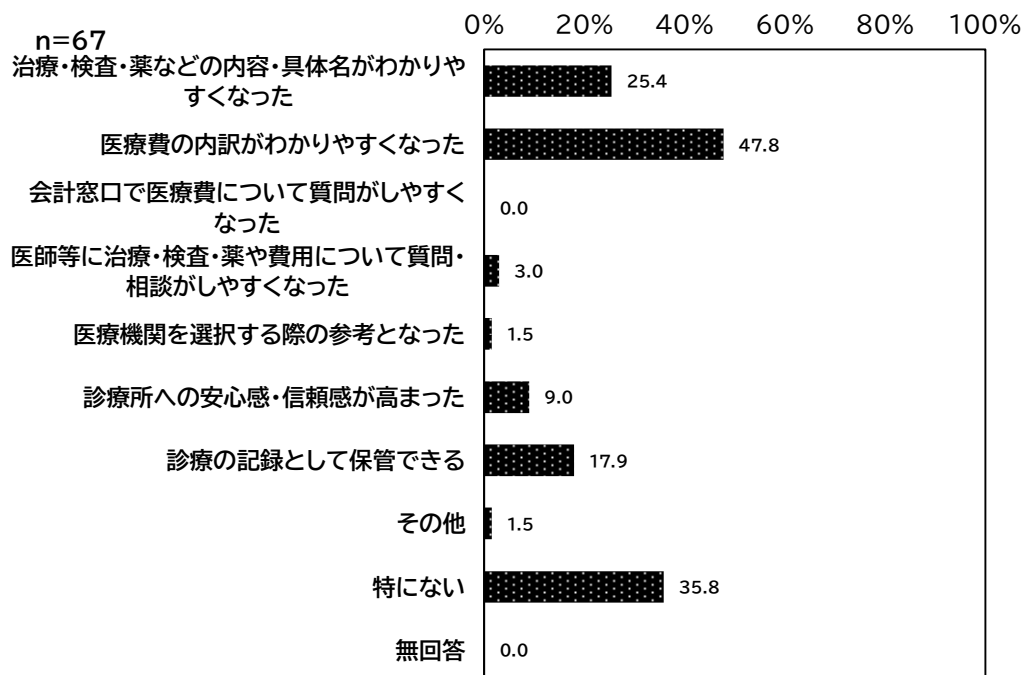
図表 4-12 明細の内容の確認



⑥ 明細書を受け取って良かったこと

明細書を受け取って良かったことについては、「医療費の内訳がわかりやすくなった」が最も多く47.8%で、次いで「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が25.4%、「診療の記録として保管できる」が17.9%であった。なお、「特にない」は35.8%であった。

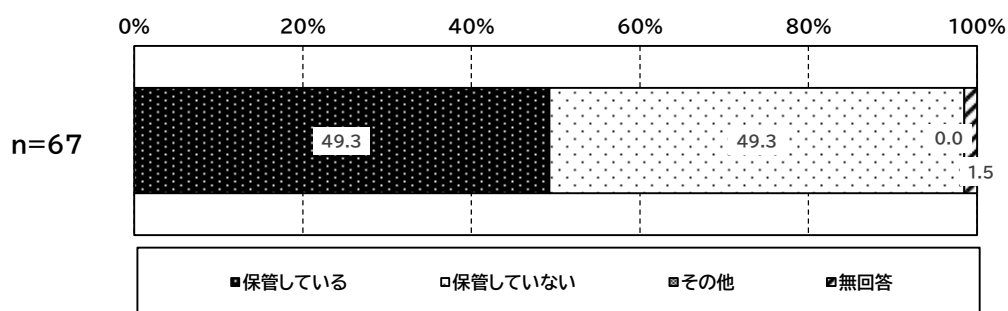
図表 4-13 明細書を受け取って良かったこと



⑦ 今まで受け取った明細書を保管しているか

今まで受け取った明細書については、「保管している」「保管していない」ともに49.3%であった。

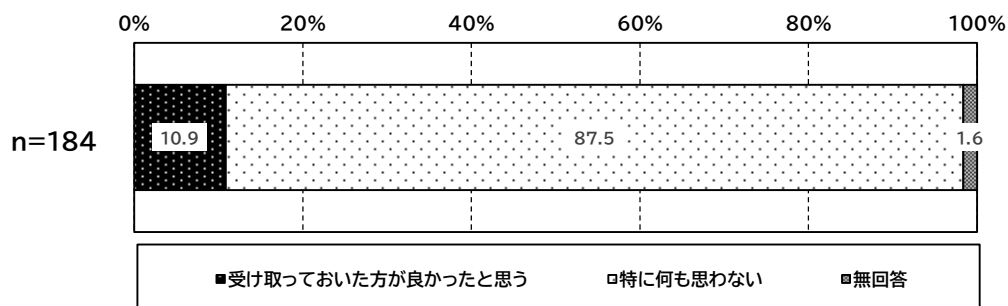
図表 4-14 明細書保管の有無



⑧ (明細書を受け取らなかった回答者について) 受け取っておきたいと思ったか

明細書を受け取らなかった場合、「受け取っておいた方が良かったと思う」は10.9%、「特に何も思わない」が87.5%であった。

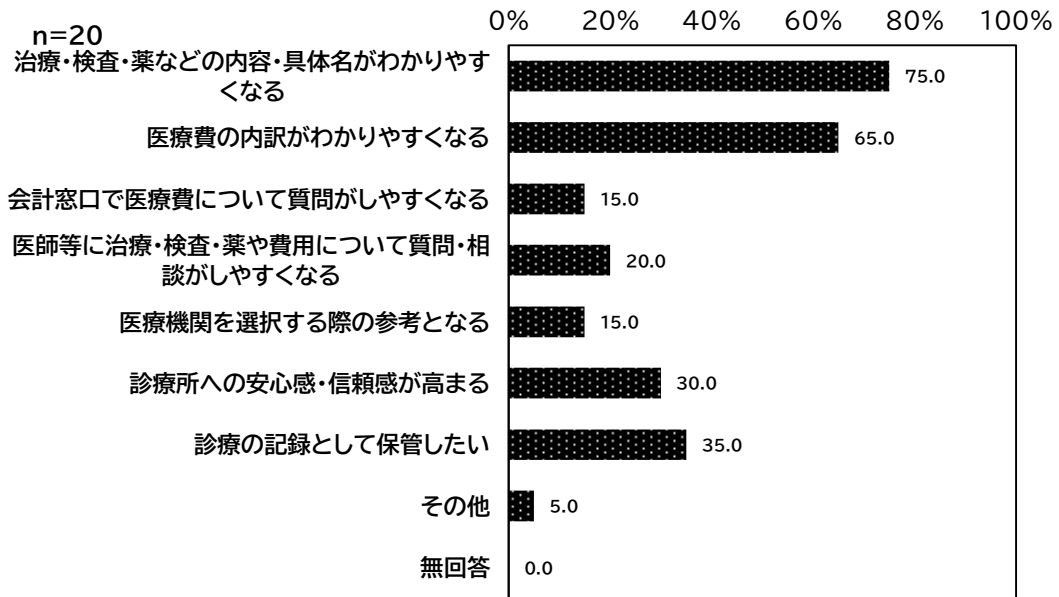
図表 4-15 明細書受け取りを希望したか



⑧ -1 「受け取っておいた方が良かったと思う」と回答した場合、その理由

受け取っておいた方が良かったと思う理由としては、「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなる」が最も多く75.0%で、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなる」が65.0%、「診療の記録として保管したい」が35.0%であった。

図表 4-16 受け取っておくべきと感じた理由

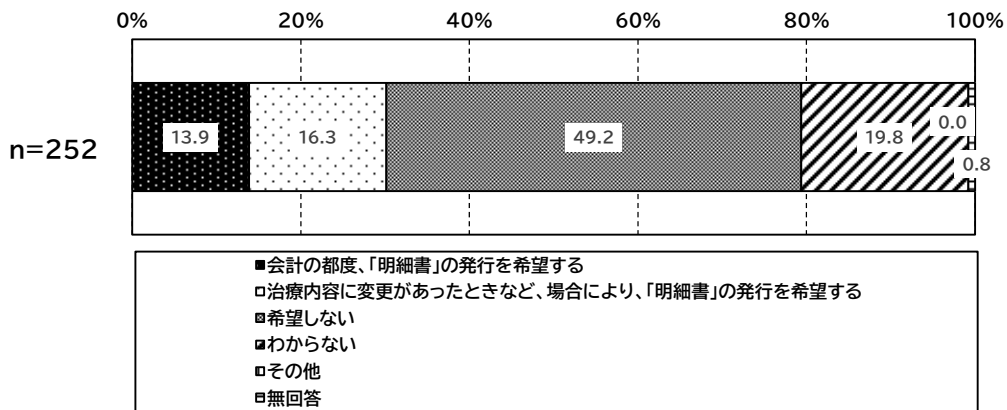


(3) これからの明細書の受け取りについて

① 今後、診療所での明細書の発行を希望するか

今後、診療所での明細書の発行を希望するかに関しては、「希望しない」が49.2%で最も多く、次いで「わからない」が19.8%、「治療内容に変更があったときなど、場合により、『明細書』の発行を希望する」が16.3%、「会計の都度、『明細書』の発行を希望する」が13.9%であった。

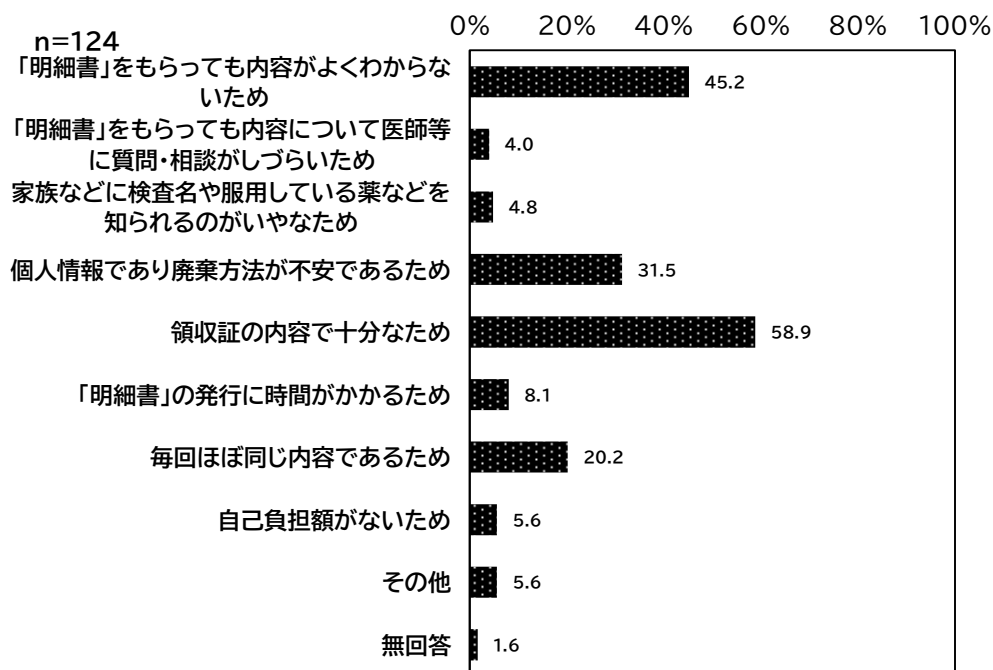
図表 4-17 明細書発行希望の有無



① -1 希望しない理由

診療所での明細書の発行を希望しない理由については、「領収証の内容で十分なため」が最も多く58.9%で、次いで「『明細書』をもらっても内容がよくわからないため」が45.2%、「個人情報であり廃棄方法が不安であるため」が31.5%であった。

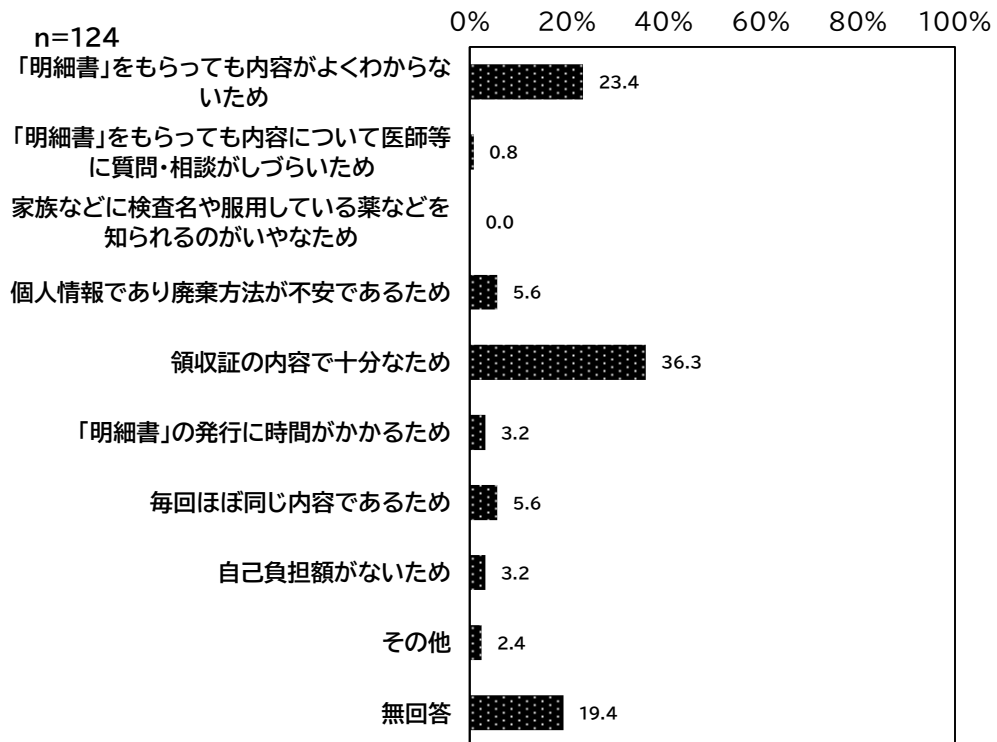
図表 4-18 明細書発行を希望しない理由



① -2 受け取りを希望しない最大の理由

受け取りを希望しない理由のうち、最大の理由としては「領収書の内容で十分なため」が36.3%で最も多く、次いで「『明細書』をもらっても内容がよくわからないため」が23.4%であった。

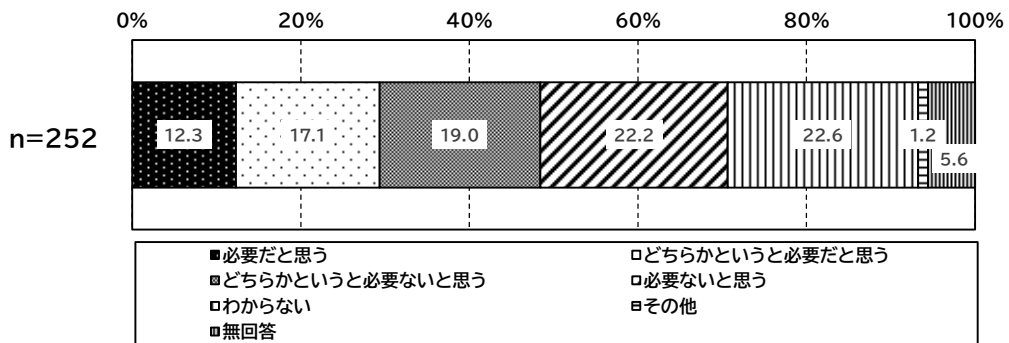
図表 4-19 明細書発行を希望しない最大の理由



② 明細書を原則無料で受け取れる制度の是非

明細書を原則無料で受け取れる制度については、「必要である（「必要だと思う」と「どちらかという必要だと思う」の計）」が29.4%で、「必要ない（「どちらかという必要ないと思う」と「必要ない（「どちらかという必要ない」と「必要ないと思う」の計）」が41.2%であった。

図表 4-20 明細書を原則無料で受け取れる制度の是非



5. 患者調査（病院）

【調査対象等】

○調査票 患者票（病院）

調査対象：全国の病院 1,000 施設に通っている患者

回答数：210 人

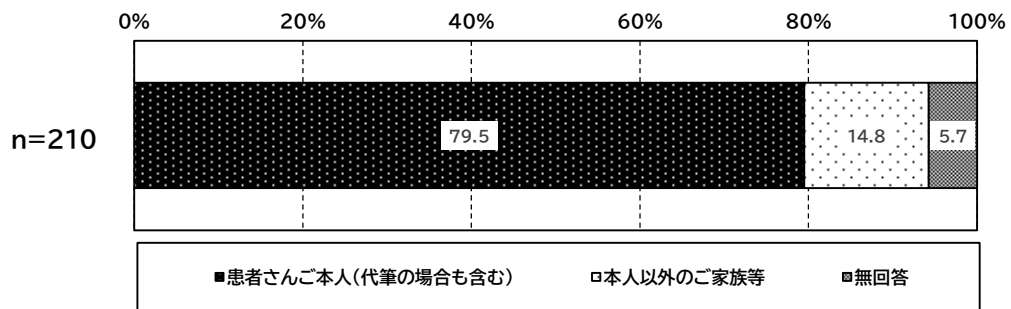
回答者：患者

(1) 調査票の記入者について

① 記入者と利用者の関係

調査票の記入者は、「患者さんご本人」が 79.5%、「本人以外のご家族等」が 14.8%であった。

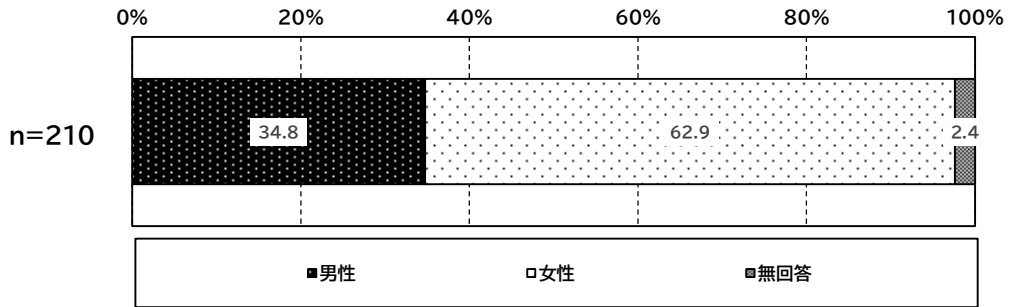
図表 5-1 調査票の記入者



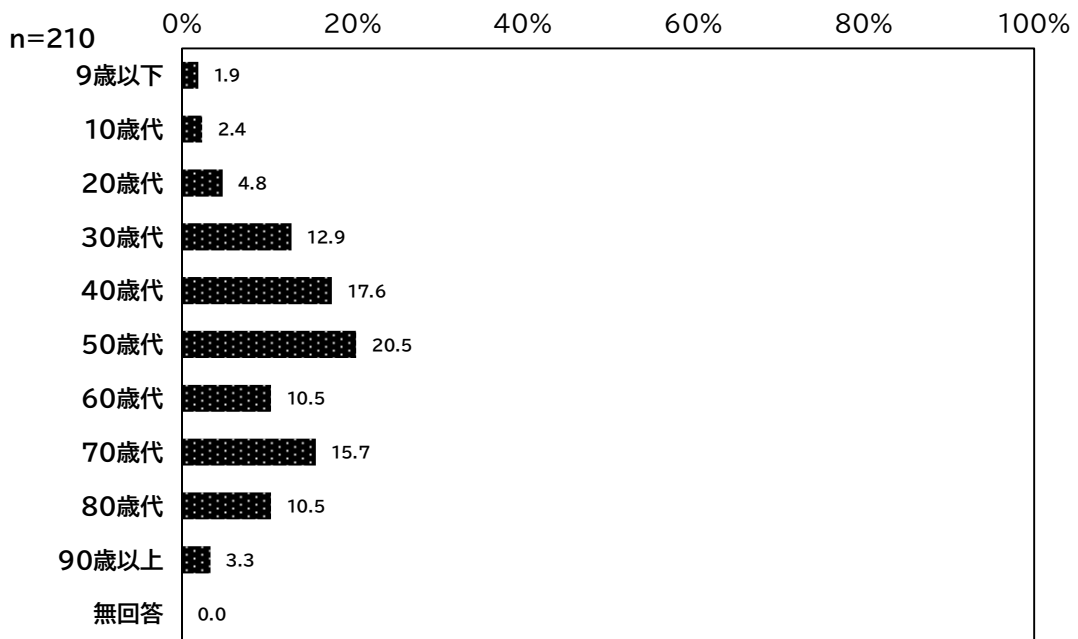
② 患者の性別と年代

患者の性別は男性が34.8%、女性が62.9%であった。また、年代では「50歳代」が最も多く20.5%であり、次いで「40歳代」が17.6%、「70歳代」が15.7%であった。

図表 5-2 患者の性別



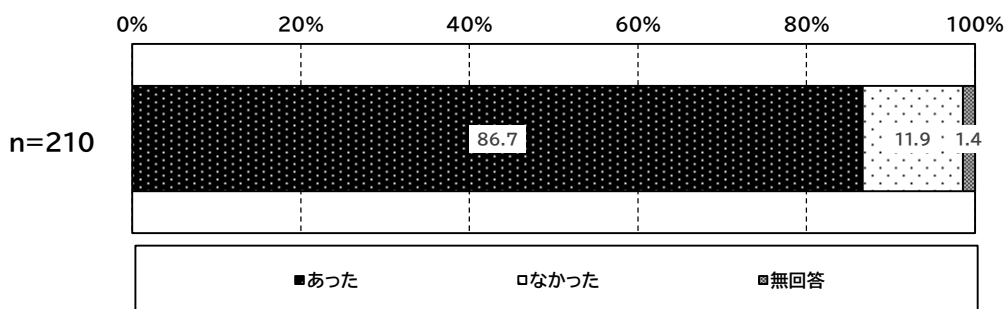
図表 5-3 患者の年代



③ 医療費の自己負担の有無

医療費の自己負担については、「あった」が86.7%、「なかった」が11.9%であった。

図表 5-4 医療費の自己負担の有無



④ この1か月間で本日受診した病院に行った回数

この1か月間で本日受診した病院に行った回数の平均値は1.8回であった。

図表 5-5 利用した回数

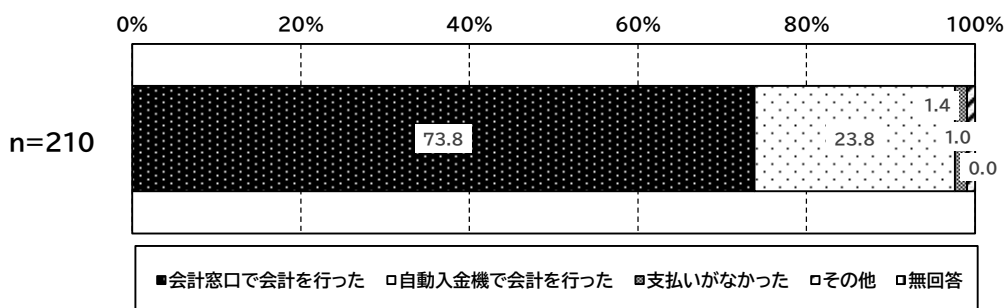
	人数	平均値 (回)	標準偏差	中央値
受診回数	183	1.8	1.7	1

(2) 受診日当日の明細書の受け取り状況

① どのように会計を行ったか

会計方法としては、「会計窓口で会計を行った」が73.8%であり、「自動入金機で会計を行った」が23.8%、「支払いがなかった」が1.4%であった。

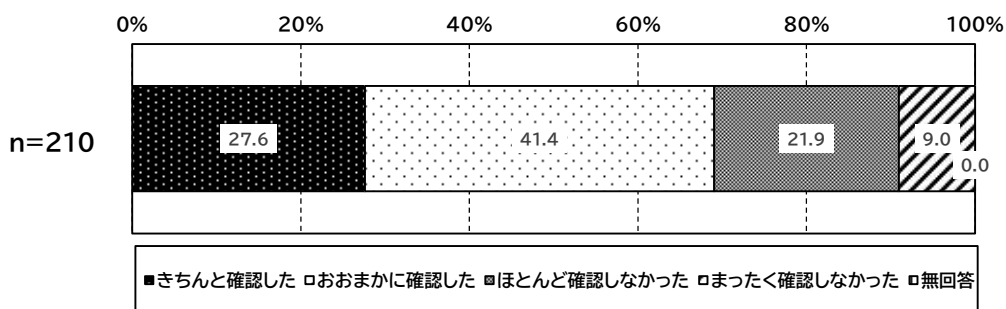
図表 5-6 会計方法



② 明細書の内容の確認

明細書の内容を、「確認した（「きちんと確認した」と「おおまかに確認した」の計）」は69.0%、「確認しなかった（「ほとんど確認しなかった」と「まったく確認しなかった」の計）」は30.9%であった。

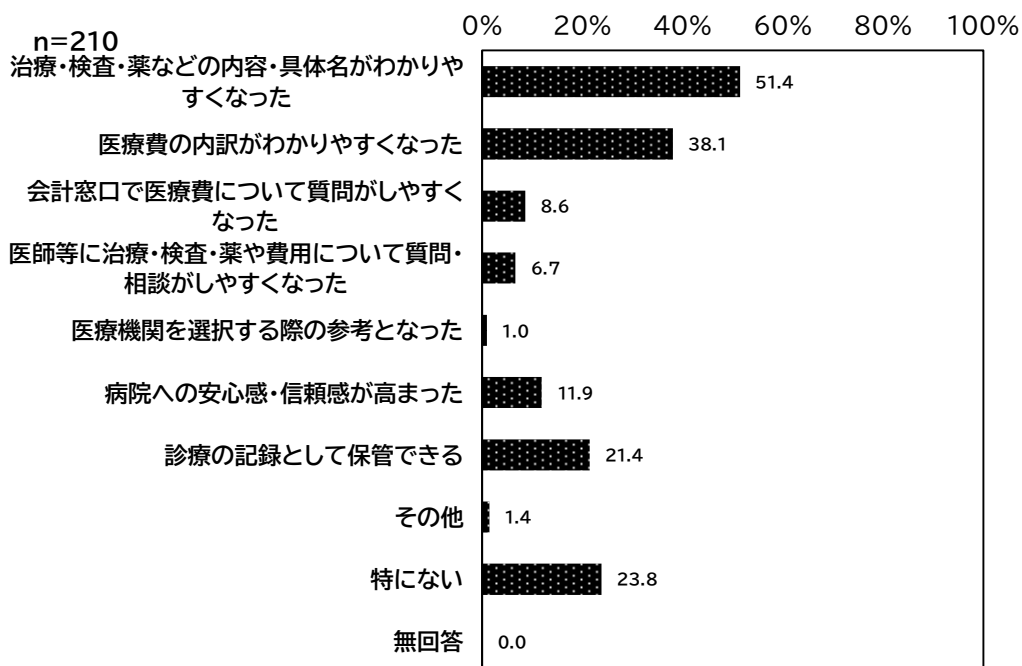
図表 5-7 明細の内容の確認



③ 明細書を受け取って良かったこと

明細書を受け取って良かったことについては、「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」が最も多く51.4%で、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなった」が38.1%、「診療の記録として保管できる」が21.4%であった。なお、「特にない」は23.8%であった。

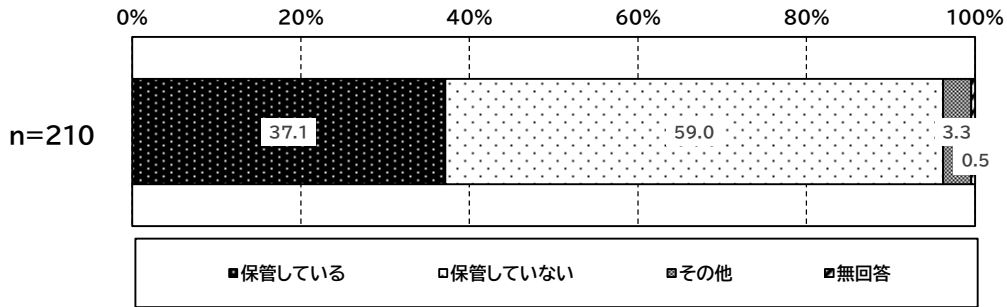
図表 5-8 明細書を受け取って良かったこと



④ 今まで受け取った明細書の保管

今まで受け取った明細書については、「保管している」が37.1%、「保管していない」が59.0%であった。

図表 5-9 明細書保管の有無

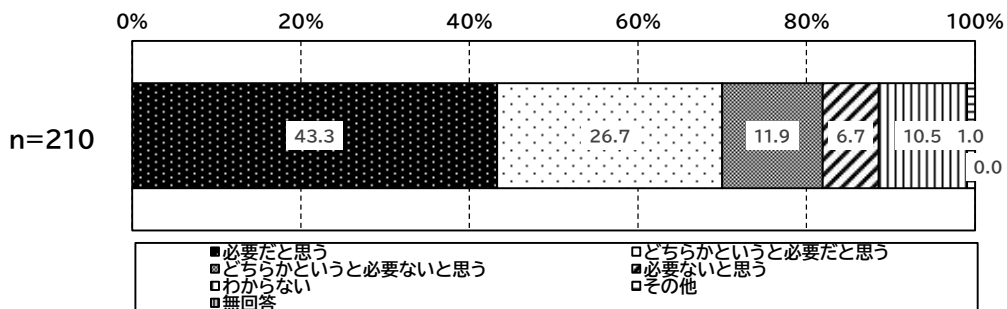


(3) 明細書の受け取りについての考え

① 明細書を原則無料で受け取れる制度の是非

明細書を原則無料で受け取れる制度については、「必要である（「必要だと思う」と「どちらかという必要だと思う」の計）」が70.0%で、「必要ない（「どちらかという必要ないと思う」と「必要ないと思う」の計）」が18.6%であった。

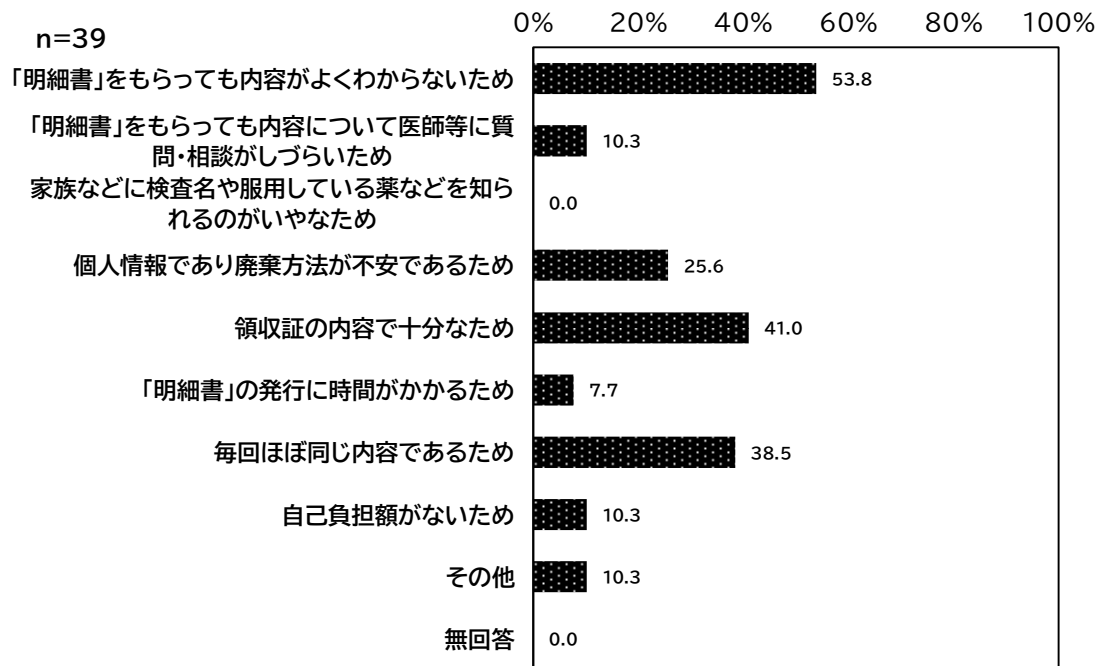
図表 5-10 明細書を原則無料で受け取れる制度の是非



① -1 制度が必要ないと思う理由

明細書を原則無料で受け取れる制度が「必要ないと思う」と回答した理由としては、「『明細書』をもらっても内容がよくわからないため」が53.8%で最も多く、次いで「領収証の内容で十分なため」が41.0%、「毎回ほぼ同じ内容であるため」が38.5%であった。

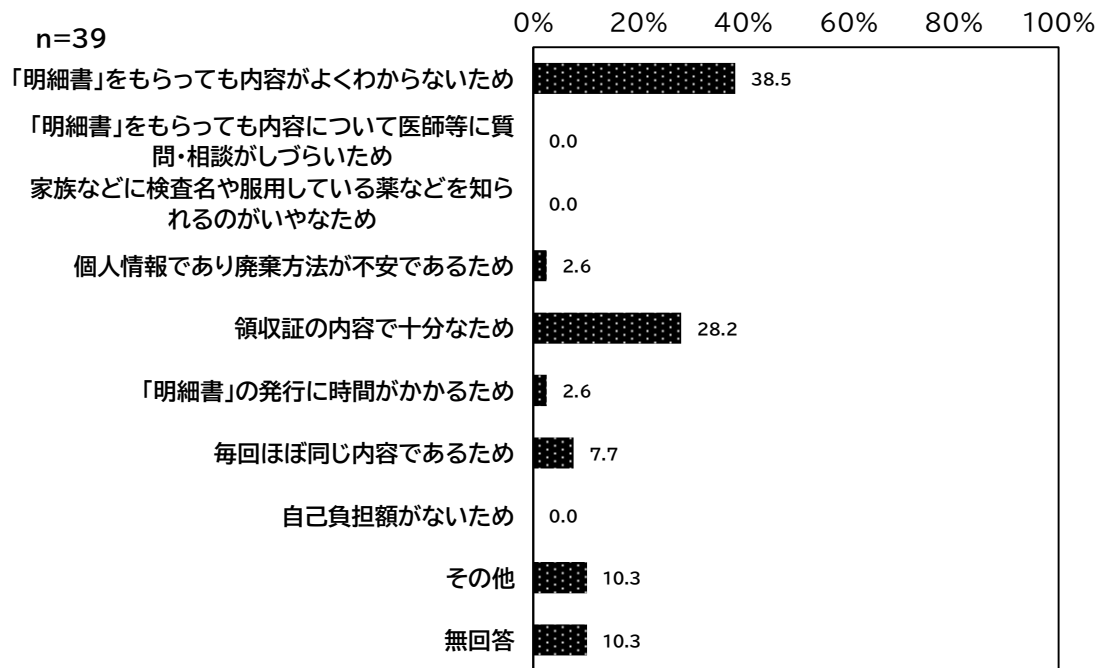
図表 5-11 制度が必要ないと思う理由



① -2 必要ないと思う最大の理由

明細書を原則無料で受け取れる制度が「必要ないと思う」と回答した最大の理由としては、「『明細書』をもらっても内容がよくわからないため」が38.5%で最も多く、次いで「領収証の内容で十分なため」が28.2%であった。

図表 5-12 必要ないと思う最大の理由



6. 利用者調査（訪問看護）

【調査対象等】

○調査票 利用者票（訪問看護）

調査対象：全国の訪問看護ステーション（機能強化型訪問看護ステーション及び機能強化型以外の訪問看護ステーション）の利用者

回答数：1483人

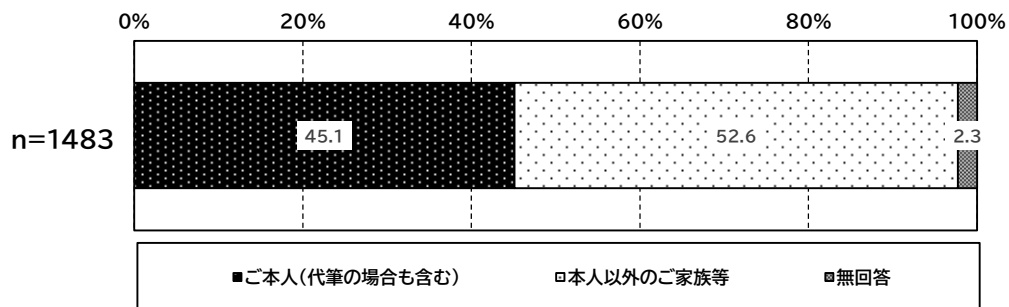
回答者：利用者

(1) 調査票の記入者について

① 記入者と利用者の関係

調査票の記入者は、「（利用者）ご本人」が45.1%、「本人以外のご家族等」が52.6%であった。

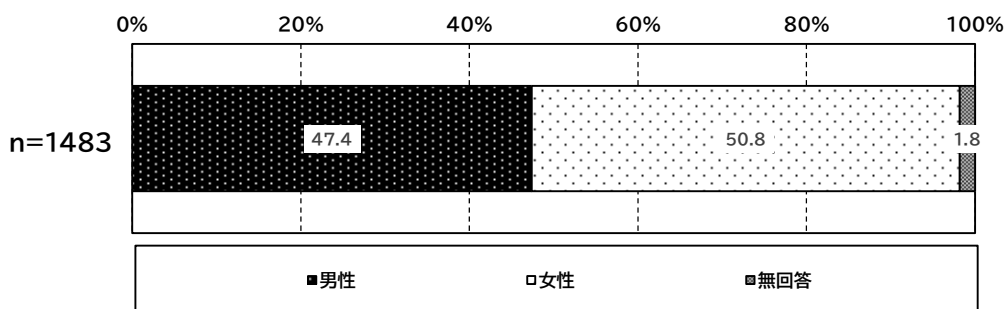
図表 6-1 調査票の記入者



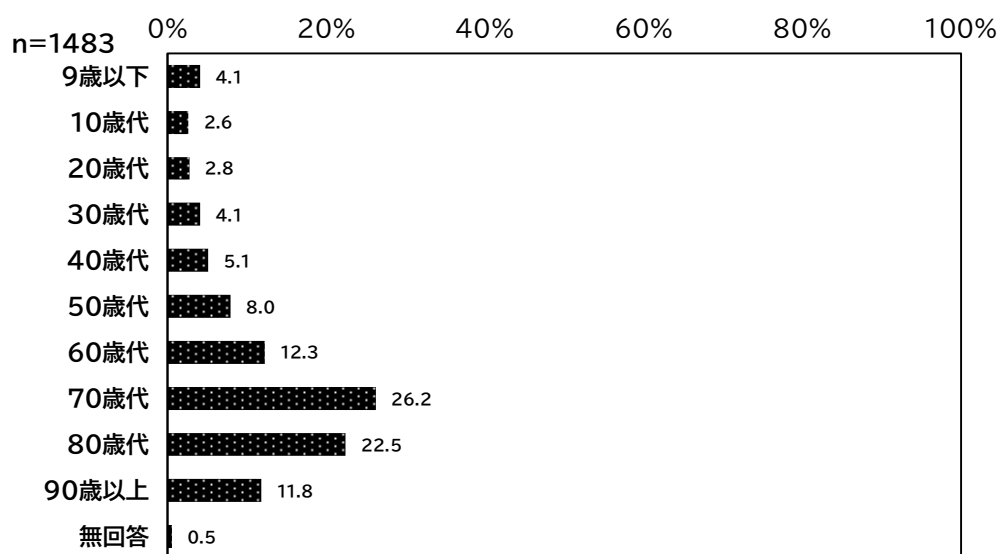
② 利用者の性別と年代

利用者の性別は男性が47.4%、女性が50.8%であった。また、年代では「70歳代」が最も多く26.2%であり、次いで「80歳代」が22.5%、「60歳代」が12.3%であった。

図表 6-2 利用者の性別



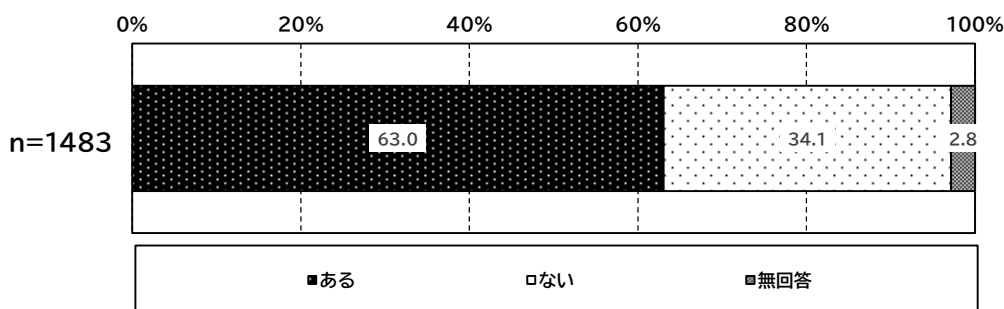
図表 6-3 利用者の年代



③ 医療費の自己負担の有無

医療費の自己負担については、「ある」が63.0%、「ない」が34.1%であった。

図表 6-4 医療費の自己負担の有無



④ この1か月間で訪問看護ステーションを利用した回数

この1か月間で訪問看護ステーションを利用した回数の平均値は9.0回であった。

図表 6-5 利用した回数

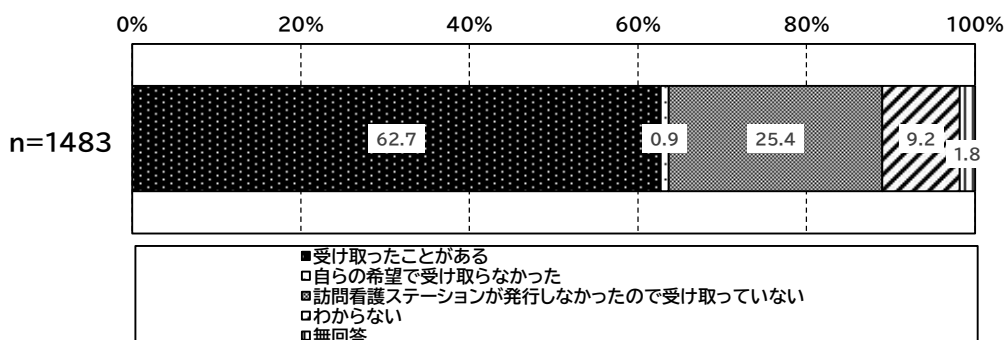
	人数	平均値 (回)	標準偏差	中央値
利用回数	1406	9.0	8.8	8

(2) 明細書の受け取り状況

① 直近約1か月の明細書受け取りの有無

利用した訪問看護ステーションから、直近1か月くらいの間に明細書を「受け取ったことがある」のは62.7%で、次いで「訪問看護ステーションが発行しなかったため受け取っていない」が25.4%であった。

図表 6-6 明細書受け取りの有無 (直近約1か月)

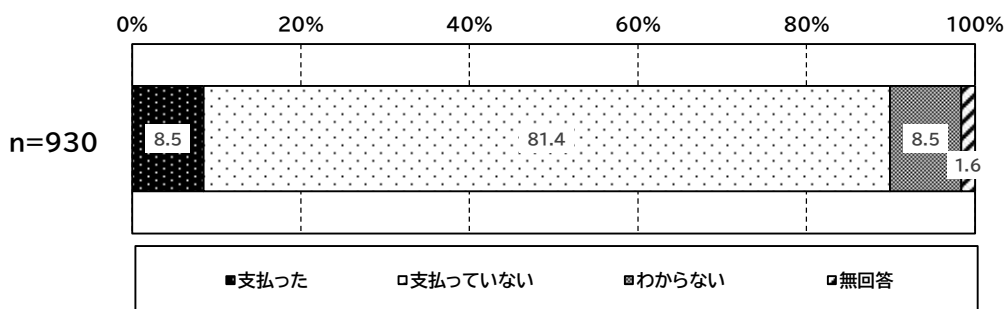


① - 1 明細書を受け取るための手数料支払いの有無と、その具体的な金額

明細書を受け取ったことがある利用者において、明細書を受け取った際に、手数料を「支払った」は8.5%、「支払っていない」は81.4%であった。

また、支払った場合の具体的な金額の平均値は9517.9円であった。

図表 6-7 手数料支払いの有無



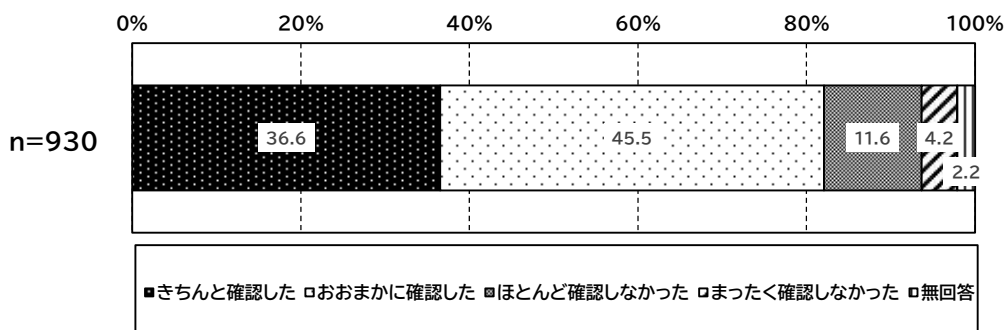
図表 6-8 支払った金額

	人数	平均値 (円)	標準偏差	中央値
支払った金額	62	9517.9	10866.5	6855

① - 2 明細書の内容確認の有無

明細書を受け取ったことがある利用者において、明細書の内容を、「確認した（「きちんと確認した」と「おおまかに確認した」の計）」は82.1%、「確認しなかった（「ほとんど確認しなかった」と「まったく確認しなかった」の計）」は15.8%であった。

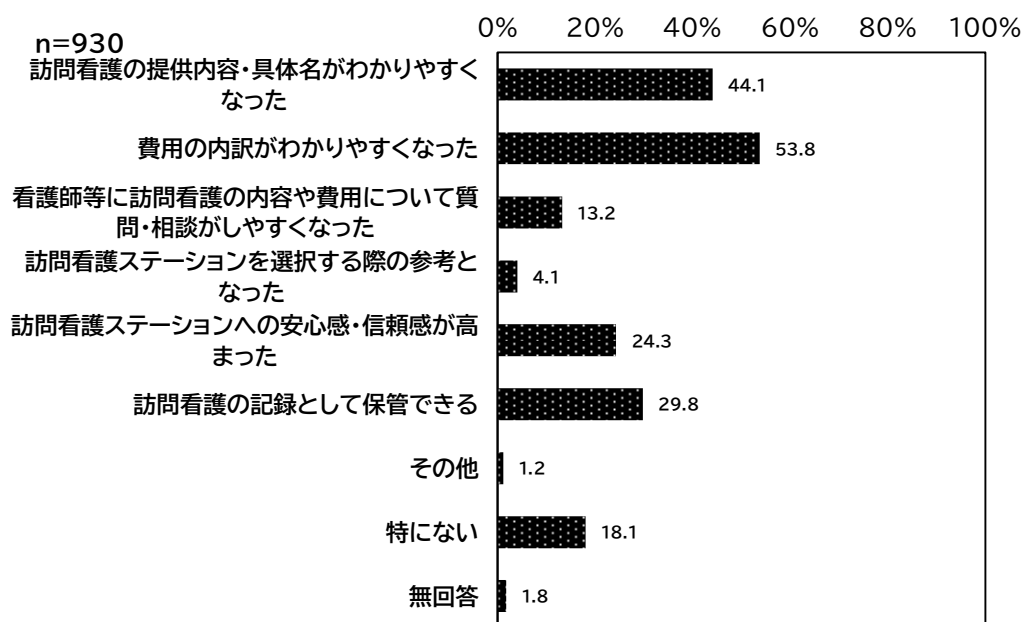
図表 6-9 明細書の内容確認の有無



① -3 明細書を受け取って良かったこと

明細書を受け取ったことがある利用者において、明細書を受け取って良かったことについては、「費用の内訳がわかりやすくなった」が最も多く53.8%で、次いで「訪問看護の提供内容・具体名がわかりやすくなった」が44.1%、「診療の記録として保管できる」が29.8%であった。なお、「特にない」は18.1%であった。

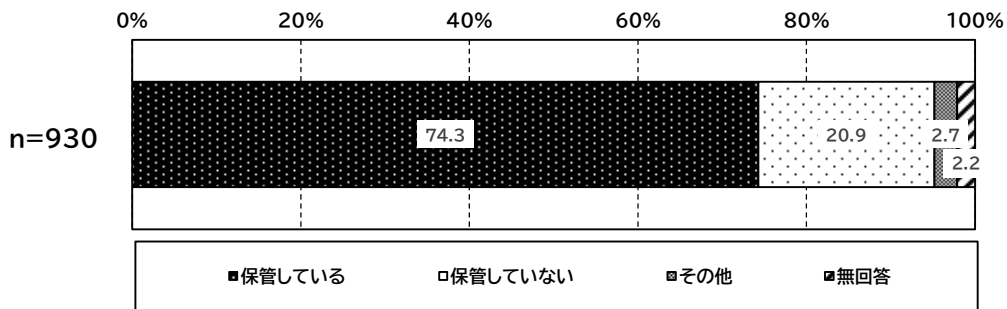
図表 6-10 明細書を受け取って良かったこと



① -4 今まで受け取った明細書の保管

今まで受け取った明細書については、「保管している」が74.3%、「保管していない」が20.9%であった。

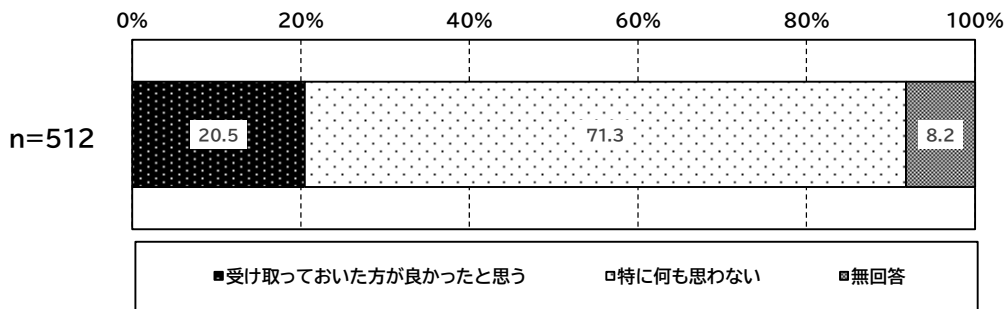
図表 6-11 明細書保管の有無



② (明細書が発行されない、受け取ったかわからない場合について) 明細書を受け取っておいた方が良かったと思うか。

明細書を受け取らなかった場合、「受け取っておいた方が良かったと思う」は20.5%、「特に何も思わない」が71.3%であった。

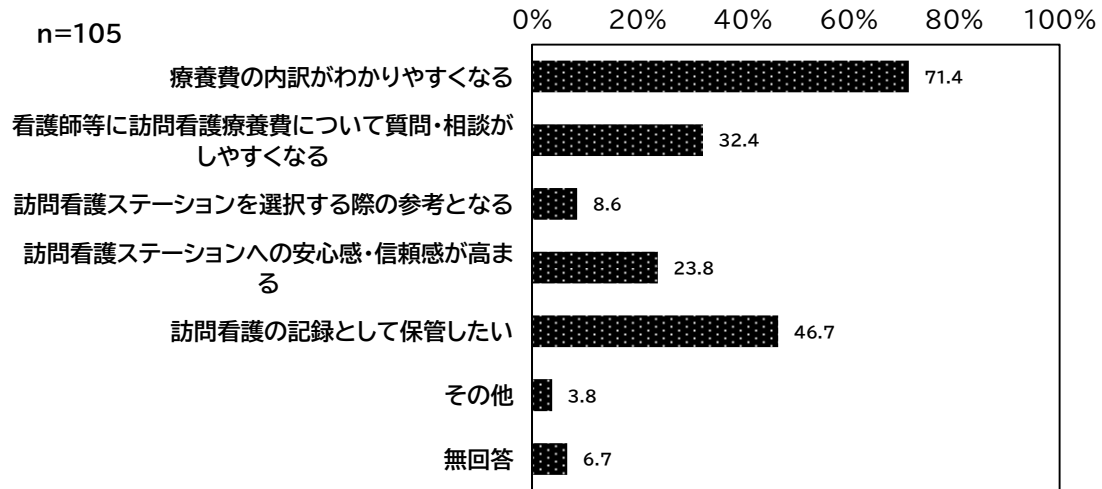
図表 6-12 明細書を受け取った方が良かったか



② -1 受け取っておいた方が良かったと思う理由

受け取っておいた方が良かったと思う理由としては、「療養費の内訳がわかりやすくなる」が最も多く71.4%で、次いで「訪問看護の記録として保管したい」が46.7%、「看護師等に訪問看護療養費について質問・相談がしやすくなる」が32.4%であった。

図表 6-13 明細書を受け取った方が良かったと思う理由

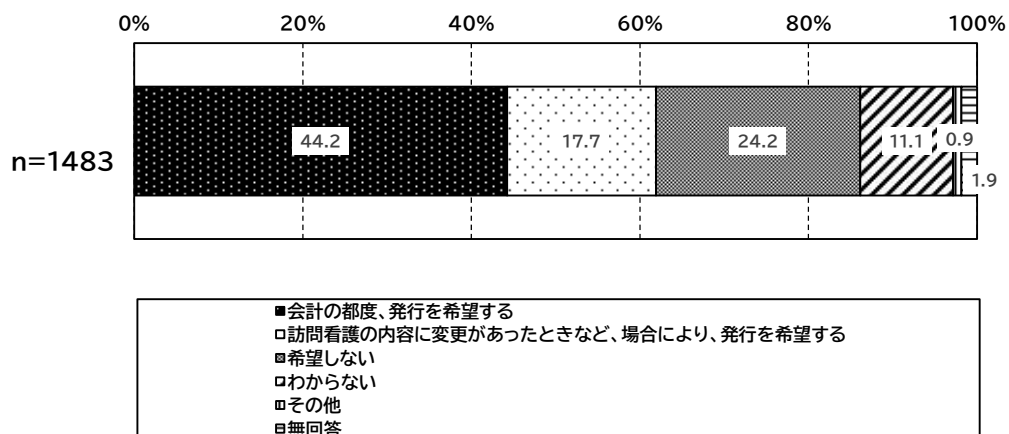


(3) これからの明細書の受け取りに対する考え

① 今後、明細書の発行を希望するか

今後、訪問看護ステーションでの明細書の発行を希望するかに関しては、「会計の都度、『明細書』の発行を希望する」が44.2%で最も多く、次いで「希望しない」が24.2%、「訪問看護の内容に変更があったときなど、場合により、発行を希望する」が17.7%であった。

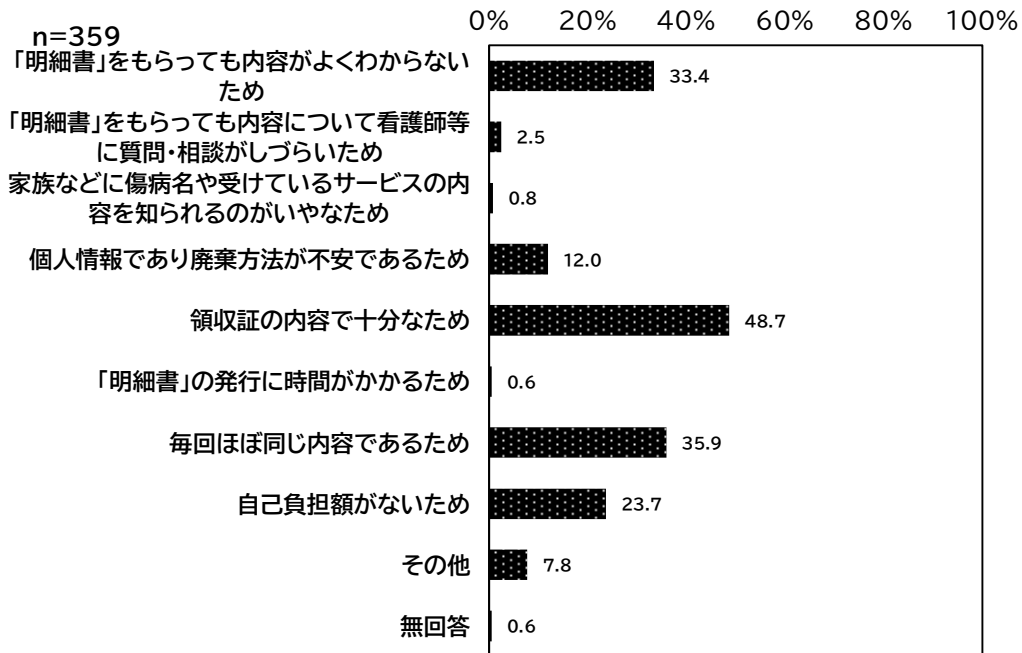
図表 6-14 明細書発行希望の有無



① -1 明細書発行を希望しない理由

訪問看護ステーションでの明細書の発行を希望しない理由については、「領収証の内容で十分なため」が最も多く48.7%で、次いで「毎回ほぼ同じ内容であるため」が35.9%、「『明細書』をもらっても内容がよくわからないため」が33.4%であった。

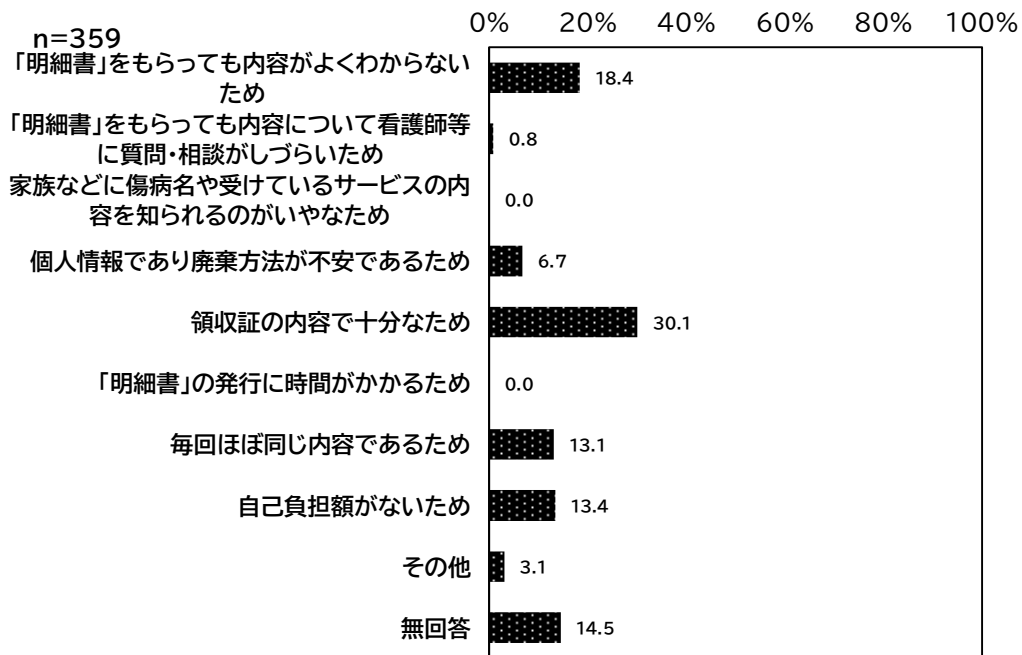
図表 6-15 明細書発行を希望しない理由



① - 2 明細書発行を希望しない最大の理由

明細書発行を希望しない理由のうち、最大の理由としては「領収書の内容で十分なため」が30.1%で最も多く、次いで「『明細書』をもらっても内容がよくわからないため」が18.4%であった。

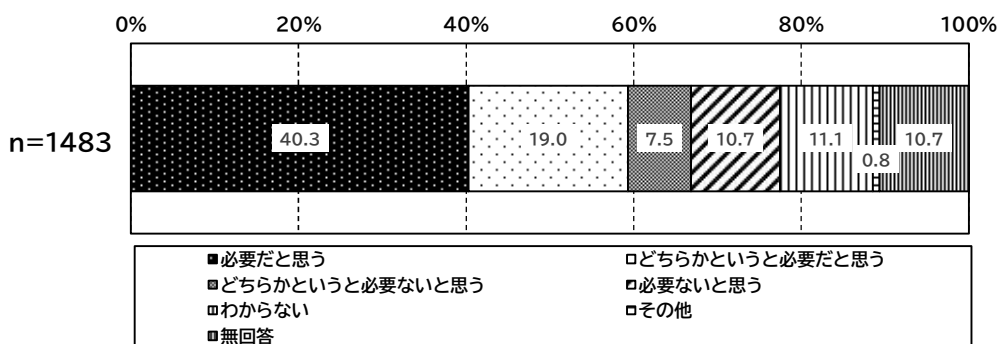
図表 6-16 明細書発行を希望しない最大の理由



② 明細書を無料で受け取れる制度について、どのように思うか

訪問看護ステーションを利用した際に、明細書を無料で受け取れる制度については、「必要である（「必要だと思う」と「どちらかという必要だと思う」の計）」が59.3%で、「必要ない（「どちらかという必要ないと思う」と「必要ない（「どちらかという必要ない」と「必要ないと思う」の計）」が18.2%であった。

図表 6-17 明細書を無料で受け取れる制度をどう思うか



令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和4年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査

施設票【一般診療所・歯科診療所】

- ※ この「一般診療所・歯科診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における診療の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、令和4年6月末時点の状況についてご記入ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()								
②所在地	()都・道・府・県								
③開設者 ※○は1つだけ	1. 個人		2. 法人		3. その他 ()				
④施設種別 ※○は1つだけ	1. 有床診療所 →許可病床数：()床								
	2. 無床診療所								
⑤標榜診療科 ※○はいくつでも	1. 内科 ^{注1}		2. 外科 ^{注2}		3. 整形外科		4. 脳神経外科		
	5. 小児科		6. 産婦人科・産科		7. 精神科		8. 眼科		
	9. 耳鼻咽喉科		10. 泌尿器科		11. 皮膚科		12. 歯科		
	13. 矯正歯科		14. 小児歯科		15. 歯科口腔外科				
	16. リハビリテーション科								
	17. その他								
⑥全職員数 (非常勤職員は常勤換算*) ※令和4年6月末時点 ※小数点以下第1位まで	医師	歯科医師	看護職員	歯科衛生士	薬剤師	事務職員	その他の職員	計	
	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人	
* 非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。									
■ 1週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間)									
■ 1か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)									
⑦1か月間の延べ患者数 ※令和4年6月1か月間	1) 外来	初診	() 人		2) 入院	() 人			
		再診	() 人						

注1：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科は、「1.内科」としてご回答ください。

注2：外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科は、「2.外科」としてご回答ください。

2 「正当な理由」の届出についてお伺いします。

① 貴施設が該当する「正当な理由」は何ですか。 ※○は1つだけ
1. レセプトコンピュータに明細書発行機能が付与されていないため
2. 明細書発行のためには自動入金機の改修が必要であるため
② 貴施設では、今後、原則として全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。 ※○は1つだけ
1. 具体的な予定がある →明細書無料発行予定時期：令和()年()月頃
2. 具体的な予定は決まっていないが次期更新で導入する予定
3. 予定はない
4. その他(具体的に)

③ 貴施設では、全患者に明細書を無料で発行する場合にどのような課題がありますか。 ※〇はいくつでも
1. 設備投資のための初期費用 2. 明細書発行のための人員体制整備 3. 明細書発行に伴う業務負担の増加 4. その他（具体的に _____） 5. 特に負担に感じることはない
④ 貴施設では、院内に「正当な理由」に該当する旨等の表示はしていますか。 ※〇はいくつでも
1. 「正当な理由」に該当する旨を表示している 2. 患者が希望する場合は明細書を発行する際の手続きを表示している 3. 患者が希望する場合は明細書を発行する際の手続きの費用徴収の有無と金額を表示している 4. その他（具体的に _____）
⑤ 診療所においては平成28年度に明細書無料発行が義務化され、経過措置として、「正当な理由」がある場合は当面の間、明細書を交付することを要さず、有償で行うことができるとされましたが、現在までに明細書発行の無償化に向けてお取り組みになった事項等がございましたらご自由にご記入下さい。

3 患者への明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況】

① 貴施設における明細書の発行状況として、最もあてはまるものを選んでください。 ※〇は1つだけ
1. 希望する患者にのみ無料で発行している →令和4年6月1か月間の無料での発行件数（ _____ ）件 2. 希望する患者にのみ有料で発行している →令和4年6月1か月間の有料での発行件数（ _____ ）件 →1件当たりの徴収金額：（ _____ ）円 →その金額の算出根拠：（ _____ ）

【明細書の発行体制・体制整備等】

② 貴施設では、どのような方法で明細書の作成・発行を行っていますか。 ※〇はいくつでも
1. パソコン等で作成している 2. 手書きで作成している 3. その他（具体的に _____）
③ 貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。 ※〇はいくつでも
1. 会計窓口の職員が対応している 2. 医師又は歯科医師が対応している 3. 照会の内容によって対応する人を変えている 4. その他（具体的に _____） 5. 特に対応する体制をとっていない
④ 貴施設におけるレセプトコンピュータの改修時期と自動入金機の有無についてお答えください。
④—1 レセプトコンピュータの直近の改修時期（平成・令和 _____ 年） ④—2 レセプトコンピュータの次の改修予定時期（令和 _____ 年頃） ④—3 自動入金機の有無 1. 有 2. 無

【患者の反応等】

⑤ 貴施設において、令和4年6月1か月間で、患者から明細書の内容について問合せはありましたか。※○は1つだけ

1. あった →質問⑥-1・質問⑥-2・質問⑥-3へ 2. なかった

▶【内容について問合せがあった施設の方】

⑥-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。 ※○はいくつでも

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 診療月日 | 2. 入院期間 |
| 3. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む） | 4. 診療報酬点数の個別点数や価格 |
| 5. 診療報酬点数の算定回数 | 6. 使用医薬品の名称・投与回数・日数 |
| 7. その他（具体的に _____) | |

⑥-2 上記⑥-1で最も多いものの番号1つをお答えください。

▶【内容について問合せがあった施設の方】

⑥-3 上記⑥-1以外に患者からどのような意見・感想を聞きましたか。 ※○はいくつでも

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 個人情報患者本人以外に知られる | 2. 会計での待ち時間が長くなった |
| 3. 明細書に記載されている情報量が多い | 4. 明細書に記載されている情報量が少ない |
| 5. 明細書の記載内容が分かりにくい | 6. 専門的で理解することが難しい |
| 7. 領収書と明細書のどちらかに統合して欲しい | |
| 8. その他（具体的に _____) | |
| 9. 特に意見・感想は聞いていない | |

4 明細書の無料発行に当たっての課題等についてお伺いします。

① 仮に明細書の無料発行が義務化された場合において、貴施設では明細書の無料発行が可能となるために必要な期間は何年でしょうか。具体的な年数をお答えください。

1. (_____)年 2. 対応不可

② 上記の年数が必要な理由について、具体的にご記入下さい。（対応不可の場合は、その理由）
（例：レセプトコンピュータを窓口にも増設するための費用の確保が必要なため 等）

5 明細書の無料発行の推進に関する影響・効果等について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

施設票の質問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
令和5年1月10日（火）までに返信用封筒（切手不要）に封入の上ご投函ください。

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和4年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。
この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人(代筆の場合も含む)	2. 本人以外のご家族等(具体的に)
----------------------	---------------------

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性	2. 女性								
② 年代 ※○は1つだけ	1. 9歳以下	2. 10歳代	3. 20歳代	4. 30歳代	5. 40歳代	6. 50歳代	7. 60歳代	8. 70歳代	9. 80歳代	10. 90歳以上
③ 医療費の自己負担額(診療所の窓口で支払う金額)がありましたか。ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。 ※○は1つだけ									1. あった	2. なかった
④ この1か月間で、本日受診した(この調査票を受け取った)診療所に行った回数									約()回	

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」に、診療の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した診療所ではどのように会計を行いましたか。 ※○は1つだけ	
1. 会計窓口で会計を行った	2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった	4. その他(具体的に)
② 診療所での会計の際に「明細書」を受け取れることを知っていましたか(本日の受付や会計時に知った場合も含みます)。また、知っていた場合は「明細書」の受け取りを希望しましたか。 ※○は1つだけ	
1. 知っていた →【a. 受け取りを希望した b. 受け取りを希望しなかった c. 特に意思表示はしなかった】	
2. 知らなかった	
③ 本日受診した診療所で「明細書」を受け取りましたか。 ※○は1つだけ	
1. 受け取った	2. 受け取らなかった

→「明細書」を受け取らなかった方は裏面の⑧へ進んでください

④ 「明細書」を受け取るための手数料(治療費ではありません)をお支払いになりましたか。 お支払いになった場合はその金額もご記入ください。 ※○は1つだけ		
1. 支払った(お支払い金額: 円)	2. 支払っていない	3. わからない
⑤ 「明細書」の内容を確認しましたか。 ※○は1つだけ		
1. きちんと確認した	2. おおまかに確認した	
3. ほとんど確認しなかった	4. まったく確認しなかった	

⑥ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 医療機関を選択する際の参考となった
6. 診療所への安心感・信頼感が高まった
7. 診療の記録として保管できる
8. その他（具体的に _____)
9. 特にない

⑦ 今まで受け取った「明細書」を保管していますか。

1. 保管している 2. 保管していない 3. その他 (_____)

(「明細書」を受け取らなかった方にお伺いします。)

⑧ 「明細書」を受け取れるのであれば、受け取っておいた方が良かったと思いますか。

1. 受け取っておいた方が良かったと思う
2. 特に何も思わない →質問3の①へ

⑧-1 「明細書」を受け取っておいた方が良かったと思う理由は何ですか。※〇はいつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなる
2. 医療費の内訳がわかりやすくなる
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなる
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなる
5. 医療機関を選択する際の参考となる
6. 診療所への安心感・信頼感が高まる
7. 診療の記録として保管したい
8. その他（具体的に _____)

3. <みなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、診療所での「明細書」の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

- | | |
|--|---------------|
| 1. 会計の都度、「明細書」の発行を希望する | →質問②へ |
| 2. 治療内容に変更があったときなど、場合により、「明細書」の発行を希望する | →質問②へ |
| 3. 希望しない | →質問①—1・質問①—2へ |
| 4. わからない | |
| 5. その他（具体的に | ） |

①-1 希望しない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に

①-2 上記①-1の選択肢1～9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 診療所を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかというとも必要だと思う |
| 3. どちらかというとも必要ないと思う | 4. 必要ないと思う |
| 5. わからない | 6. その他（具体的に |

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
 令和5年1月10日（火）までに返信用封筒（切手不要）に封入の上ご投函ください。

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和4年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。
この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者さんご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 患者さんご本人のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性
② 年代 ※○は1つだけ	1. 9歳以下 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳代 10. 90歳以上
③ 医療費の自己負担額(病院の窓口で支払う金額)がありましたか。 <u>ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。</u> ※○は1つだけ	1. あった 2. なかった
④ この1か月間で、本日受診した(この調査票を受け取った)病院に行った回数	約()回

2. ここからは、本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。
※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」に、診療の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した病院ではどのように会計を行いましたか。 ※○は1つだけ

1. 会計窓口で会計を行った 2. 自動入金機で会計を行った
3. 支払いがなかった 4. その他(具体的に)

② 「明細書」の内容を確認しましたか。 ※○は1つだけ

1. きちんと確認した 2. おおまかに確認した
3. ほとんど確認しなかった 4. まったく確認しなかった

③ 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。 ※○はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 医療機関を選択する際の参考となった
6. 病院への安心感・信頼感が高まった
7. 診療の記録として保管できる
8. その他(具体的に)
9. 特にない

④ 今まで受け取った「明細書」を保管していますか。		
1. 保管している	2. 保管していない	3. その他 ()

3. 「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 医療機関を受診して会計を行う際に、「明細書」を原則無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。 ※○は1つだけ		
1. 必要だと思う	2. どちらかという必要だと思う	
3. どちらかという必要ないと思う	4. 必要ないと思う	
5. わからない	6. その他 (具体的に)	

【「どちらかという必要ないと思う」「必要ないと思う」を選択した方】

①-1 必要ないと思う理由は何ですか。 ※○はいくつでも

<ul style="list-style-type: none"> 1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため 2. 「明細書」をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため 3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため 4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため 5. 領収証の内容で十分なため 6. 「明細書」の発行に時間がかかるため 7. 毎回ほぼ同じ内容であるため 8. 自己負担額がないため 9. その他 (具体的に)

①-2 上記①-1の選択肢1～9のうち、必要としない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

4. 「明細書」の発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
 令和5年1月10日(火)までに返信用封筒(切手不要)に封入の上ご投函ください。

令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和4年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、利用者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. ご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 利用者さんご本人のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性
② 年代 ※○は1つだけ	1. 9歳以下 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳代 10. 90歳以上
③ 医療費の自己負担額がありますか。 <u>ただし、領収証で「保険外負担」となっているものは自己負担額に含めないでください。</u> ※○は1つだけ	1. ある 2. ない
④ この1か月間で、本日利用した(この調査票を受け取った)訪問看護ステーションを利用した回数	約 () 回

2. 本日の「明細書」の受け取り状況等についておうかがいします。

※「明細書」とは、「療養費の詳細な内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力をお願い」に、訪問看護の内容がわかる「明細書」の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日利用した訪問看護ステーションから、最近1か月くらいの間に「明細書」を受け取ったことがありますか。 ※○は1つだけ

1. 受け取ったことがある → 質問①—1・質問①—2・質問①—3・質問①—4へ

2. 自らの希望で受け取らなかった → 質問3の①へ

3. 訪問看護ステーションが発行しなかったので受け取っていない } 裏面の質問②へ

4. わからない }

①—1 「明細書」を受け取るための手数料(訪問看護療養費ではありません)をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。 ※○は1つだけ

1. 支払った → (お支払い金額: 円)

2. 支払っていない

3. わからない

①—2 「明細書」の内容を確認しましたか。 ※○は1つだけ

1. きちんと確認した 2. おおまかに確認した

3. ほとんど確認しなかった 4. まったく確認しなかった

①-3 「明細書」を受け取って良かったことは何ですか。 ※〇はいつでも

1. 訪問看護の提供内容・具体名がわかりやすくなった
2. 費用の内訳がわかりやすくなった
3. 看護師等に訪問看護の内容や費用について質問・相談がしやすくなった
4. 訪問看護ステーションを選択する際の参考となった
5. 訪問看護ステーションへの安心感・信頼感が高まった
6. 訪問看護の記録として保管できる
7. その他（具体的に _____ ）
8. 特にない

①-4 今まで受け取った「明細書」を保管していますか。

1. 保管している
2. 保管していない
3. その他（ _____ ）

（「明細書」が発行されなかった方、受け取ったかわからなかった方にお伺いします。）

②「明細書」を受け取れるのであれば、受け取っていただいた方が良かったと思いますか。

1. 受け取っていただいた方が良かったと思う
2. 特に何も思わない → 質問3の①へ

②-1「明細書」を受け取っていただいた方が良かったと思う理由は何ですか。 ※〇はいつでも

1. 療養費の内訳がわかりやすくなる
2. 看護師等に訪問看護療養費について質問・相談がしやすくなる
3. 訪問看護ステーションを選択する際の参考となる
4. 訪問看護ステーションへの安心感・信頼感が高まる
5. 訪問看護の記録として保管したい
6. その他（具体的に _____ ）

3. <みなさんにおうかがいします>

これからの「明細書」の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、訪問看護ステーションでの「明細書」の発行を希望しますか。 ※〇は1つだけ

1. 会計の都度、発行を希望する → 質問②へ
2. 訪問看護の内容に変更があったときなど、場合により、発行を希望する → 質問②へ
3. 希望しない → 質問①-1・質問①-2へ
4. わからない
5. その他（具体的に _____ ）

①-1 希望しない理由は何ですか。 ※〇はいつでも

1. 「明細書」をもらっても内容がよくわからないため
2. 「明細書」をもらっても内容について看護師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに傷病名や受けているサービスの内容を知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 「明細書」の発行に時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担額がないため
9. その他（具体的に _____ ）

①-2 上記①-1の選択肢1～9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 訪問看護ステーションを利用した際に、「明細書」を無料で受け取れる制度について、どのように思いますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 必要だと思う | 2. どちらかという必要だと思う |
| 3. どちらかという必要ないと思う | 4. 必要ないと思う |
| 5. わからない | 6. その他（具体的に) |

4. 「明細書」の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
令和5年1月10日（火）までに返信用封筒（切手不要）に封入の上ご投函ください。